

OMRON

自動シャットダウンソフト

PowerAct Pro Master Agent

取扱説明書

目次

1. はじめに	3
1. 1 本ソフトウェアの用途について	3
1. 2 ソフトウェア使用許諾契約書について	3
1. 3 運用に関するおことわり	5
2. PowerAct Pro の概要	6
2. 1 基本機能	6
2. 1. 1 機能概要	6
2. 1. 2 ネットワークシステム構成	7
2. 1. 3 冗長電源システム構成	8
2. 2 動作環境	10
2. 3 UPS の接続	10
3. PowerAct Pro の動作確認	12
3. 1 UPS との接続確認	12
3. 2 エージェント機能	13
3. 3 PowerAct Pro モニタの起動確認	17
3. 4 自動シャットダウン動作	20
3. 4. 1 自動シャットダウン動作の流れ	20
3. 4. 2 自動シャットダウン動作の設定例	22
4. PowerAct Pro モニタ	31
4. 1 モニタメニュー	31
4. 1. 1 システム	31
4. 1. 1. 1 エージェント自動検索	31
4. 1. 1. 2 環境設定	32
4. 1. 1. 3 イベント情報種類	58
4. 1. 1. 4 スケジュール	64
4. 1. 1. 5 ログオフ	68
4. 1. 2 ログ	69
4. 1. 2. 1 イベントログ	69
4. 1. 2. 2 データログ	70
4. 1. 2. 3 CO2 ログ	72
4. 1. 2. 4 終了アプリケーション	74
4. 1. 3 UPS 設定	75
4. 1. 3. 1 ブザー	75
4. 1. 3. 2 バッテリ自動テスト	75
4. 1. 3. 3 出力電圧／入力感度	76
4. 1. 3. 4 バッテリ交換時の設定	77
4. 1. 4 手動操作	78

4. 1. 4. 1 即時シャットダウン	78
4. 1. 4. 2 ブザーテスト	78
4. 1. 4. 3 自己診断テスト	78
4. 1. 4. 6 コマンド送信	79
4. 1. 5 ヘルプ	80
4. 1. 5. 1 オンラインヘルプ	80
4. 1. 5. 2 バージョン情報	80
4. 1. 5. 3 システム情報	80
4. 1. 5. 4 管理者情報	80
4. 1. 5. 5 製品ページ	80
4. 1. 5. 6 ユーザ登録ページ	80
4. 2 モニタのツールバー	81
4. 3 イベント情報	82
4. 3. 1 イベント情報の内容	82
4. 3. 2 イベント情報による外部コマンドの実行	90

1. はじめに

1. 1 本ソフトウェアの用途について

本ソフトウェアは、OA 機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、極めて高い信頼性や安全性が要求される機器、用途には使用しないでください。

- ・ 人命に直接かかわる医療機器。
- ・ 人身の損傷に至る可能性のある用途。(航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途)
- ・ 車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途。
- ・ 故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途。(主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど)
- ・ これらに準ずる機器、用途。

1. 2 ソフトウェア使用許諾契約書について

本ソフトウェアをコンピュータへインストールされた場合は、次のソフトウェア使用許諾契約書(以下本契約)の内容にご同意いただけたものといたします。

ご同意いただけない場合には、本ソフトウェアをコンピュータにインストールしないでください。

〈ソフトウェア使用許諾契約書〉

本契約は、オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社(以下オムロン)がお客様にソフトウェア商品(以下ソフトウェア)を使用許諾する条件を定めたものです。

必ずソフトウェアをご使用になる前に、注意して以下の事項をお読みください。

1. 本契約にいう「ソフトウェア」とは、本パッケージに含まれるコンピュータ・プログラムおよびそれに関連する技術資料などのすべてを含みます。

ソフトウェアにかかわる著作権その他の知的財産権はオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に帰属し、本契約によりお客様に移転することはありません。

お客様がそれらの権利を侵害した場合、前述のオムロンまたはオムロンに使用許諾をしている第三者に対する責任は、お客様が負うものとします。

2. オムロンは、お客様に対し、本契約に基づきソフトウェアに関し以下の非独占的権利を許諾します。

- (1) お客様がオムロンより購入した無停電電源装置(UPS)を監視および管理する目的に限り、当該 UPS から電源供給を受けているコンピュータであって、お客様自身が所有するもののみにおいて、ソフトウェアを使用する権利。

- (2) お客様が、オムロンより購入した無停電電源装置(UPS)およびソフトウェアを組み込んだ対象製品を直接または間接に顧客に頒布する権利。ただし、当該対象製品に組み込まれた当該無停電電源装置(UPS)を監視および管理する目的に限るものとし、また、当該無停電

電源装置(UPS)から電源供給を受けているコンピュータであって、顧客自身が所有するもののみにおいて使用する場合に限ります。

なお、本号において、対象製品とは、お客様が製造および販売する機器またはシステムソフトウェアをいい、また顧客とは、ソフトウェアが組込まれた対象製品を自己のもとで使用する最終使用者をいいます。

3. 前項に定める場合を除き、お客様は、ソフトウェアをオムロンの事前の書面による同意なしに第三者に再使用許諾、譲渡または貸与することはできません。
4. お客様はソフトウェアのバックアップ目的のためのみにソフトウェアを複製することができます。お客様はソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為を行うことはできません。
5. お客様は、ソフトウェアの内容について本契約期間中およびその終了後も機密として保存し、第三者へ開示しないものとします。
6. オムロンは、お客様に対し、ソフトウェアがマニュアルと主要な点で一致して作動することを保証します。
お客様が、オムロンより無停電電源装置(UPS)を購入した日またはお客様がソフトウェアをインストールした日のいずれか早く到来する日から 90 日以内に、ソフトウェアの記録媒体の物理的な欠陥(CD-ROM のキズや破損など。ただし、ソフトウェアの使用に支障を生じさせるものに限ります)またはソフトウェアの欠陥(マニュアルとの重大な不一致をいいます)を発見し返却した場合、オムロンは無償で交換いたします。ただし、上記の欠陥またはソフトウェアの記録媒体の物理的な欠陥が、お客様または第三者の不適切な使用または取扱いにより生じた場合については、上記のソフトウェアの交換の対象外となります。
7. 前項のソフトウェアの交換は、オムロンのソフトウェア保証責任のすべてを定めるものであり、オムロンはソフトウェアの欠陥により発生した、お客様の直接的、間接的、あるいは波及効果による損害、特別な事情による損害、逸失利益についての損害に対しては一切の責任を負いません。
8. ソフトウェアの改変ならびに逆コンパイル、逆アセンブリ、およびリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権(実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ)、著作権または営業秘密を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者または当該第三者以外からお客様が請求された場合にはオムロンは責任を負いません。
9. オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様がソフトウェアにより監視および管理している無停電電源装置(UPS)の購入代金として支払った金額を超えることはありません。

10. お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することによりソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。

その場合、お客様はソフトウェアおよびそのすべての複製物をオムロンに返却しなければなりません。

11. 本契約は、日本国法に基づき解釈されるものとします。

12. お客様が日本に居住する個人または日本法に基づき設立された法人の場合には、本契約に関する一切の紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属的合意管轄裁判所とします。その他の場合には、本契約に関する一切の紛争については、一般社団法人日本商事仲裁協会の商事仲裁規則にしたがって、東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。仲裁人の裁定は、最終的かつ本契約の当事者を拘束するものとします。

13. 本契約は、日本語版で作成されるものとし、英語版は参考訳とします。日本語版の内容と英語版の参考訳の内容に相違がある場合は、日本語版の内容が優先します。

1. 3 運用に関するおことわり

① 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。

② 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。

③ 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、当社までご連絡くださるようお願いいたします。

④ 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。

「PowerAct Pro」は、当社の登録商標です。

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、各会社名、各社製品名は各社の商標または登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation

(<http://www.apache.org/>).

(訳) 本ソフトウェアには、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>)において開発されたソフトウェアが含まれます。

2. PowerAct Pro の概要

2.1 基本機能

2.1.1 機能概要

本ソフトウェアは、UPS に接続しているコンピュータやその他のデバイスを自動シャットダウンするためのソフトウェアです。また、ブラウザを使用して、UPS の監視、UPS の各種設定、(自動シャットダウン動作に関する設定、イベント情報の通知設定、出力コンセント制御など)、UPS の動作状態の表示などを行うことができます。

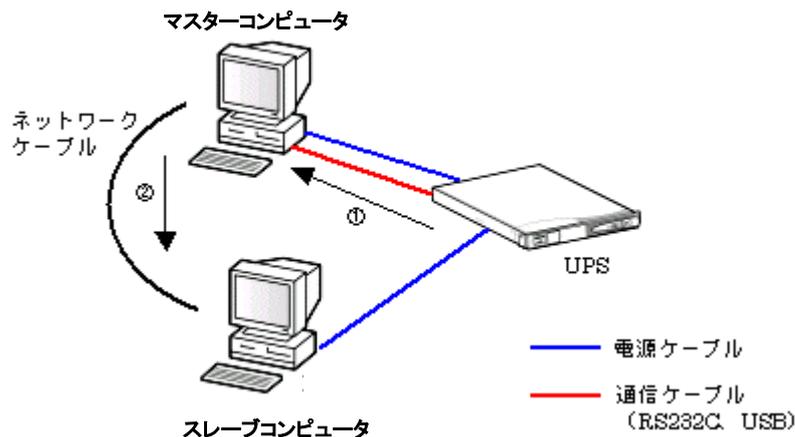
- ① 本ソフトウェアは、入力電源異常(停電など)が発生した時に、アプリケーションソフトを自動シャットダウンさせ、OS やハードディスクの損傷を防止するソフトウェアです。
- ② 入力電源異常(停電など)が発生した場合、本ソフトウェアは、作成中や編集中のファイルを自動保存し、アプリケーションソフトや OS の終了を行います。また OS 自動シャットダウン後に UPS は自動停止します。
- ③ 本ソフトウェアは、インターネット、イントラネット経由で UPS の状態を監視できます。
- ④ 本ソフトウェアは、ネットワーク上の複数のコンピュータを連携して自動シャットダウンさせることができます。
- ⑤ 本ソフトウェアは、冗長電源内蔵のコンピュータに接続されている複数台の UPS を同時に監視することができます。入力電源異常(停電など)が発生した場合は、自動的に OS の自動シャットダウン動作と UPS の自動停止処理を行います。
- ⑥ 出力コンセント制御機能を搭載した UPS と本ソフトウェアを組み合わせることにより、UPS の起動時の出力コンセントの開始遅延や自動シャットダウン時の出力コンセントの停止遅延を設定することができます。
- ⑦ 本ソフトウェアは、自動シャットダウン警告や UPS の動作情報(以下 イベント情報という)を指定したユーザへネットワーク経由で通知することができます。
- ⑧ 本ソフトウェアは、スケジュール運転や即時自動シャットダウンなどの操作、管理機能や UPS の自己診断機能などを搭載しています。

【備考】

本取扱い説明書では、本ソフトウェアの動作状態や設定状態の変化、UPS の動作状態の変化を“イベント”と表現しています。

2. 1. 2 ネットワークシステム構成

本システム構成では、ネットワークで接続された複数のコンピュータをマスター/スレーブ構成により1台のUPSでバックアップすることができます。PowerAct Pro Slave Agentをインストールしたコンピュータ(以下、スレーブコンピュータ)をPowerAct Pro Master Agentをインストールしたコンピュータ(以下、マスターコンピュータ)からのネットワーク経由の命令で自動シャットダウンできます。



本システム構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

【バックアップ動作】

- ① UPSが入力電源異常を検出すると、UPSは、入力電源異常をマスターコンピュータへ通信ケーブル経由で通知します。
- ② マスターコンピュータは、自動シャットダウン動作を開始すると同時にスレーブコンピュータにネットワーク経由で自動シャットダウンを開始するように命令を送信します。
- ③ スレーブコンピュータは、設定されている自動シャットダウン設定に従って自動シャットダウン動作を開始します。
- ④ 自動シャットダウン完了後にUPSを自動的に停止します。

【補足】

マスター/スレーブのネットワークシステムを構成される場合は、必ずHUBやルータなどのネットワーク通信機器の電源ケーブルも、UPSの出力コンセントへ接続してください。

マスターコンピュータが起動していない時に入力電源異常が発生した場合、スレーブコンピュータは自動シャットダウンを行いません。必ずマスターコンピュータを起動してください。

2. 1. 3 冗長電源システム構成

冗長電源内蔵のコンピュータを複数の UPS でバックアップする構成です。

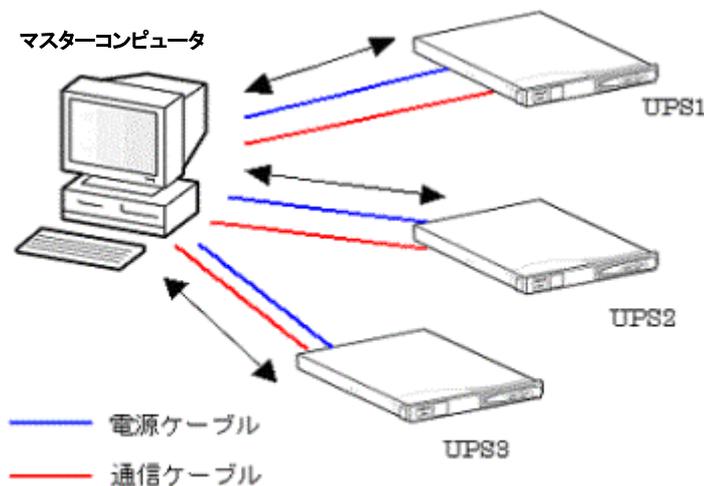
コンピュータにインストールされた PowerAct Pro Master Agent によって複数の UPS の監視および制御を行うことができます。

冗長電源システムとしては、[1+N]構成または[N+1]構成の 2 通りの方式から選択することができます。

●[1+N]構成の冗長電源システム

コンピュータに接続した複数の UPS の内、最低 1 台以上の UPS が正常動作し、コンピュータに対して電力供給をしていればコンピュータは自動シャットダウン動作を開始しないシステム構成です。

下図の例では、3 つの電源ユニットを搭載したコンピュータの電源ユニットごとに各 1 台ずつ UPS を接続しています。



この構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

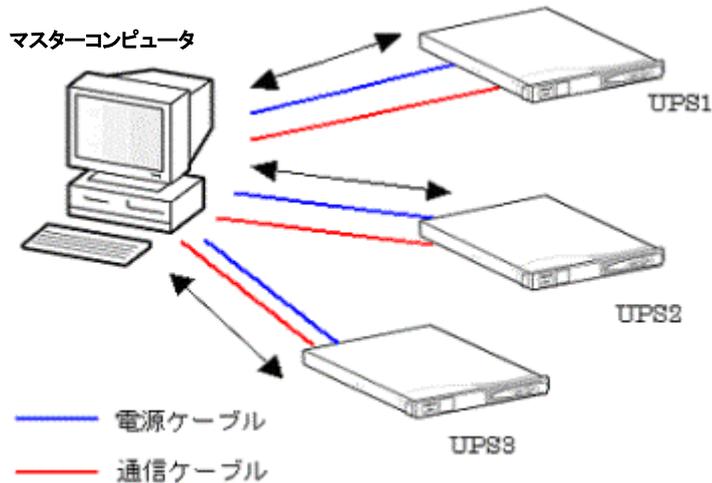
【バックアップ動作】

- ① UPS の UPS3 で入力電源異常(停電など)が発生し、UPS1 と UPS2 の入力電源が正常である場合は、マスターコンピュータは UPS3 のみを自動停止し、OS の自動シャットダウン動作は行いません。
- ② UPS の UPS2 でさらに入力電源異常が発生した場合、UPS1 が正常動作していれば、マスターコンピュータは、UPS2 のみを自動停止し、OS の自動シャットダウン動作は行いません。
- ③ UPS の UPS1 でさらに入力電源異常が発生した場合、マスターコンピュータは、設定されている自動シャットダウン設定に従って、OS の自動シャットダウンを行い、OS 自動シャットダウン完了後に UPS を自動的に停止します。

●[N+1]構成の冗長電源システム

UPS から電力供給を受けているコンピュータの電源ユニット数が、“N”台以下になるような場合は、OS の自動シャットダウンと UPS の自動停止を行うシステム構成です。

下図の例では、3 つの電源ユニットを搭載したコンピュータの電源ユニットごとに各 1 台ずつ UPS を接続しています。



この構成では次のようなバックアップ動作が実行されます。

【バックアップ動作】

上図のコンピュータは、UPS から電力供給されている電源ユニットが 2 台以下になるような場合は、OS の自動シャットダウンと UPS の自動停止処理を行うように設定されているものとします。

- ① UPS の UPS3 で入力電源異常(停電など)が発生しても、UPS1 および UPS2 の入力電源が正常である場合は、マスターコンピュータの 2 台の電源ユニットに対して電力供給が可能なので、マスターコンピュータは UPS3 のみを自動停止し、OS の自動シャットダウンは行いません。
- ② UPS の UPS2 で入力電源異常が発生した場合は、UPS1 の入力電源が正常でも、UPS から電力供給を受けられる電源ユニットは 1 台になりマスターコンピュータが正常に運転できなくなるので、マスターコンピュータは設定されている自動シャットダウン設定に従って、OS の自動シャットダウンを行い、OS 自動シャットダウン完了後に UPS を自動的に停止します。

2. 2 動作環境

ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 11.0/10.0/8.0/7.0/6.0
HTTP サーバ	Apache HTTP Server(本ソフトウェアに同梱) Internet Information Services(Windows OS 標準)
RAM	128MB 以上(256MB 以上推奨)
ハードディスク容量	100MB 以上
インターフェース	RS-232C、USB
ネットワークカード	10Mbps 以上のネットワークカード
プロトコル	TCP/IP

2. 3 UPS の接続

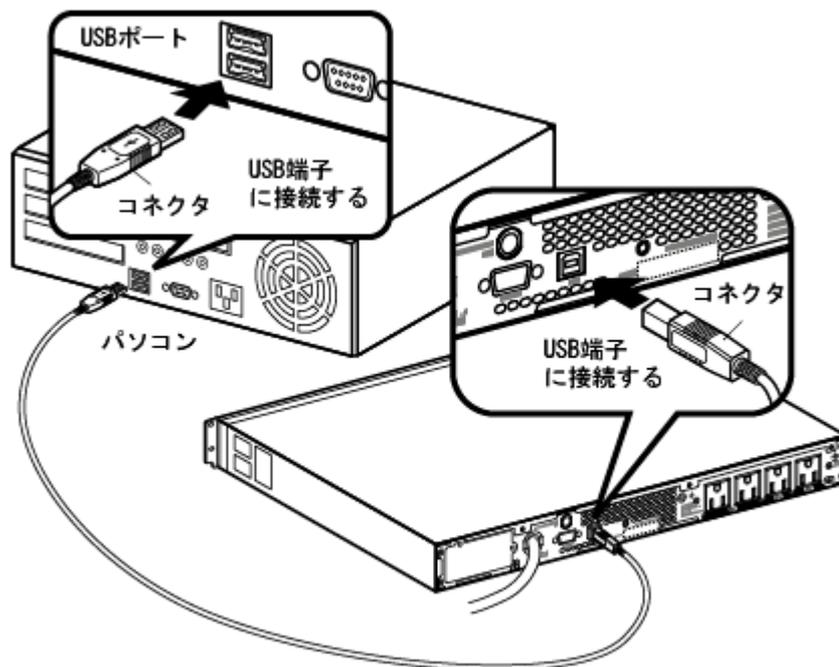
以下の手順で UPS とコンピュータを接続します。

- ① コンピュータと UPS の「電源」スイッチが切れていることを確認します。
「電源」スイッチが切れていない場合は、Windows を終了しコンピュータの「電源」スイッチを切り、その後で UPS の「電源」スイッチを切ってください。
- ② コンピュータと UPS の通信を行うための付属通信ケーブル(RS-232C または USB)で、コンピュータと UPS を下図のように接続します。接続時の注意点をご確認ください。
- ③ 通信ケーブル(RS-232C)の場合は、コネクタ固定用ネジを締め、コネクタを固定します。
- ④ UPS の「電源」スイッチを入れ、次にコンピュータの「電源」スイッチを入れます。
- ⑤ USB 接続をしている場合、OS 起動時に接続された UPS を自動的に「ヒューマンインターフェースデバイス」として認識します。
- ⑥ OS 起動後に、本ソフトウェアをインストールしてください。

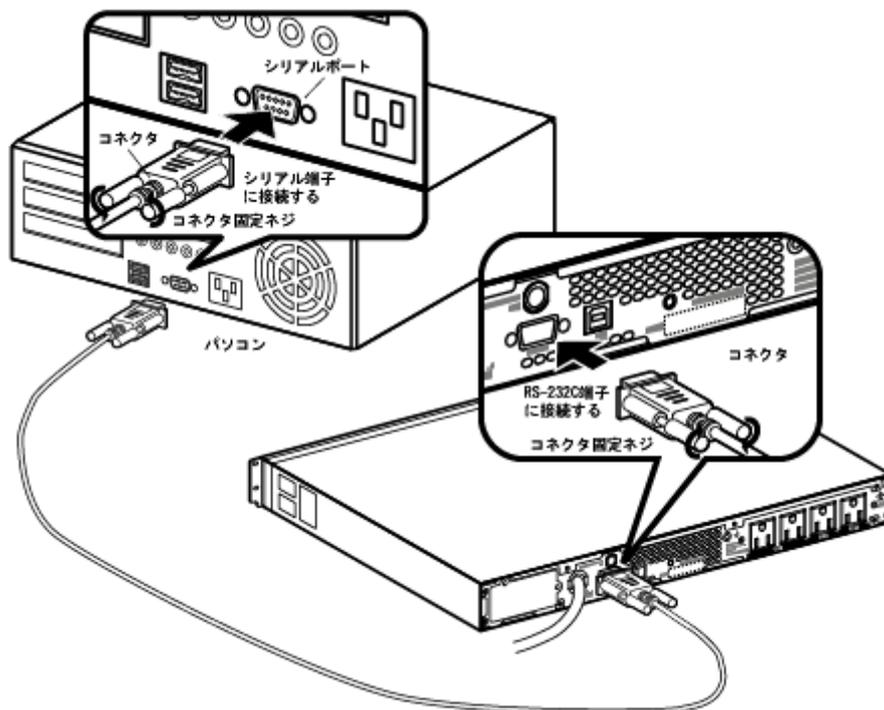
接続時の注意点

- UPS の RS-232C コネクタとコンピュータのシリアルポートを接続するケーブルは、必ず UPS に付属のケーブルを使用してください。
また、UPS に付属のケーブルを使用して通信機器や他社の UPS を接続しないでください。
- コンピュータのシリアルポートまたは USB ポートのいずれか 1 つが占有されます。

接続図(BN150XR の例) USB 接続



接続図(BN150XR の例) RS-232C 接続



3. PowerAct Pro の動作確認

3.1 UPS との接続確認

PowerAct Pro Master Agent をインストールしたコンピュータでは、Windows のタスクトレイに PowerAct Pro アイコン([電源プラグ]のアイコン)が自動的に作成され、接続されている UPS との通信を開始します。



何らかの理由で UPS と通信ができない場合や UPS に異常が発生している場合は、PowerAct Pro アイコンが次のように表示されます。マウスカーソルをアイコンの上に移動すると、異常内容が表示されます。



異常が発生した場合は次の事項を確認してください。

- コンピュータと UPS を接続している付属ケーブルが外れていないか。
- UPS を接続しているコンピュータのシリアルポートまたは USB ポートが使用可能な状態か。
- 他のソフトウェアが UPS を使用しているコンピュータのシリアルポートを使用していないか。
- UPS のバッテリーが接続されているか。
- UPS が故障していないか。

アイコン表示の上にマウスカーソルを置くと、UPS とバッテリーの状態がバルーンの中に表示されます。

<表示の見方について>

UPS 状態は左側に表示されます。 バッテリー状態は右側に表示されます。

アイコン表示	表示内容例
 	商用運転中 正常
	バックアップ運転中
	接続容量オーバー
	バイパス運転中
	ハードウェア異常
	商用運転中 バッテリー劣化
	商用運転中 バッテリー未接続
 	エージェント停止

3. 2 エージェント機能

本ソフトウェアが UPS を監視し、その状態に応じてコンピュータおよび UPS を制御する機能を PowerAct Pro のエージェント機能といいます。

PowerAct Pro Master Agent と PowerAct Pro Slave Agent の 2 つのエージェントが UPS に接続されたコンピュータに常駐することによって以下のような機能が実行できます。

【PowerAct Pro Master Agent について】

- コンピュータに接続されている UPS と通信し、UPS の状態を監視します。
- PowerAct Pro Master Agent から PowerAct Pro Slave Agent に信号を送ることによって連携して自動シャットダウンを実行します。
- ネットワーク上のコンピュータに UPS で発生した各種イベント情報を通知します。
- UPS で発生するイベントやデータを記録します。
- OS と UPS の自動シャットダウンを実行します。

【PowerAct Pro Slave Agent について】

- PowerAct Pro Master Agent からの信号により、OS の自動シャットダウンを実行します。

【備考】

エージェントは、コンピュータを起動したときに自動的に起動されます。

エージェントのアイコン表示

PowerAct Pro をインストールすると、エージェントのアイコンが自動的にタスクバーに表示されます。アイコン表示には、次の5種類の表示形式がありUPSの状態に合わせてアイコンが変化します。

アイコン表示	説明
 9:20 PM	マスターエージェントのアイコンです。 エージェント機能が起動していることを示します。
 9:20 PM	スレーブエージェントのアイコンです。 エージェント機能が起動していることを示します。
 9:23 PM	エージェント機能が停止しています。
 9:24 PM	UPS がバックアップ状態で運転しています。
 9:22 PM	通信エラー／ハードウェア異常などが発生しています。

アイコン表示にマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンをクリックすると次のようなメニューが表示されます。

メニュー	説明
エージェント起動	エージェント機能を開始します。
エージェント停止	エージェント機能を停止します。
アクセス権設定	PowerAct Pro Master Agent のみのメニューです。 PowerAct Pro モニタへのアクセス権を設定できます。詳細な使用方法については下記の「アクセス権の設定機能」をご確認ください。
シャットダウン再開	PowerAct Pro Master Agent のみのメニューです。 一時停止した自動シャットダウン動作を再開します。
シャットダウン一時停止	PowerAct Pro Master Agent のみのメニューです。 自動シャットダウン動作を一時停止できます。
環境設定	PowerAct Pro Slave Agent のみのメニューです。 PowerAct Pro Slave Agent の設定を変更できます。

【備考】

各機能の詳細については、「4.PowerAct Pro モニタ」をご確認ください。

アクセス権の設定機能

本ソフトウェアにアクセスできるユーザのログイン ID とパスワードおよびアクセス権(フルアクセス、リードオンリー、またはカスタム)を設定できます。

「フルアクセス」を設定すると、PowerAct Pro モニタのすべての機能が使用できます。

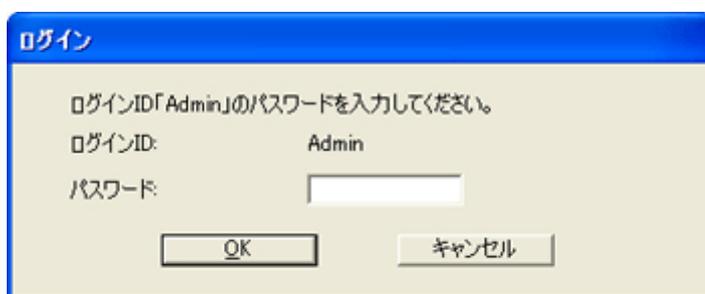
「リードオンリー」を設定すると PowerAct Pro モニタの表示のみができます。

「カスタム」を設定すると、使用することのできる機能を個別に設定できます。

アクセス権の設定、変更は次の手順で行います。

【設定・変更手順】

- ① マスターエージェントアイコンを右クリックしてメニューを表示します。
- ② [アクセス権設定]をクリックします。
- ③ ログイン ID「Admin」のパスワードを入力します。



ログイン

ログインID「Admin」のパスワードを入力してください。

ログインID: Admin

パスワード:

OK キャンセル

- ④ 新規登録する場合は[登録]、すでに登録済みのログイン ID を修正する場合は、リストの中から該当ログイン ID を選択して[修正]をクリックします。また、ログイン ID を削除する場合は、リストの中から該当ログイン ID を選択して[削除]をクリックします。

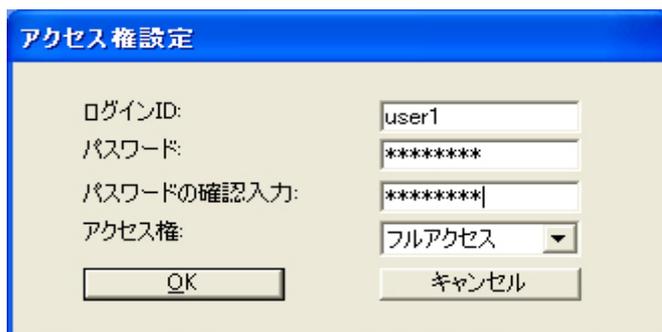


アクセス権設定

ログインID	アクセス権
Admin	フルアクセス

登録 修正 削除 キャンセル ログ

- ⑤ 登録または修正する場合は次の画面でログイン ID とパスワード、アクセス権を設定し、[OK]をクリックします。



アクセス権設定

ログインID: user1

パスワード: *****

パスワードの確認入力: *****

アクセス権: フルアクセス

OK キャンセル

- ⑥ アクセス権で「カスタム」を選択した場合は、アクセス可能にする機能を左のリストから選択し、[>>]ボタンで権限に加えます。逆に権限から外す場合は右のリストから選択し、[<<]ボタンをクリックします。設定が完了したら[OK]ボタンをクリックします。

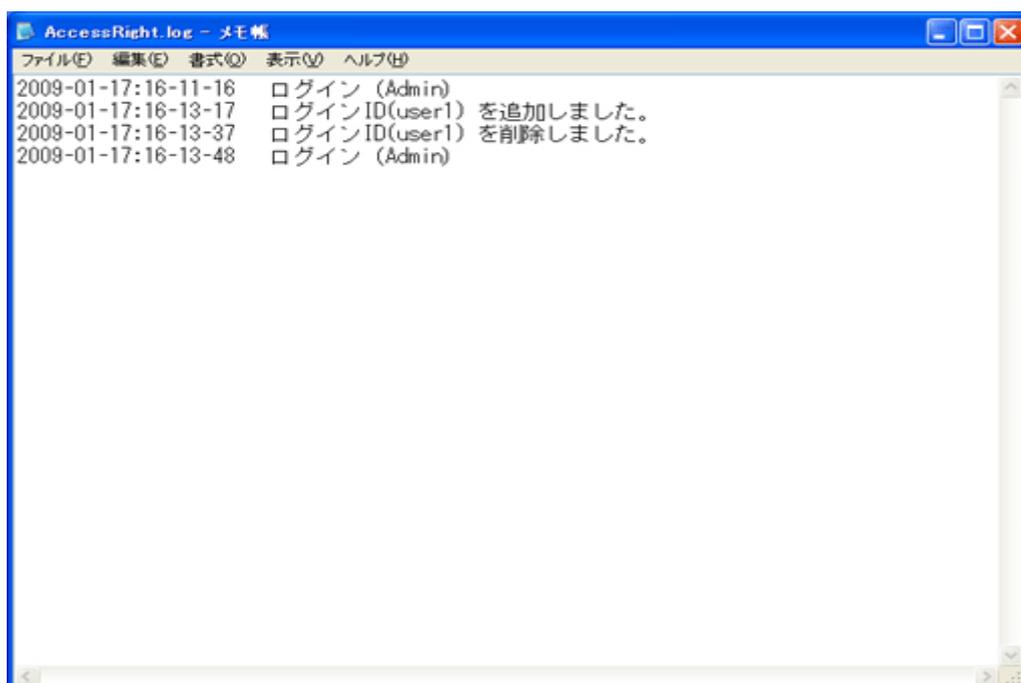


- ⑦ 操作を終了する場合は[キャンセル]をクリックします。



【参考】

[ログ]ボタンをクリックすると、操作の記録を見ることができます



3. 3 PowerAct Pro モニタの起動確認

UPS の制御や設定は、PowerAct Pro モニタ画面から行います。

PowerAct Pro モニタは次の手順で起動します

- ① 【アドレス】欄に PowerAct Pro マスターエージェント(以下マスター)をインストールしたコンピュータの IP アドレスを次のように入力し、[Enter]キーを押します。
(※ アドレス末尾の「/」は必ず入力してください。)

【ネットワークポートを変更していない場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100/PowerAct_Pro/`

【ネットワークポートを変更している場合の入力フォーマット】

入力フォーマット: `http://***.***.***.***:****/PowerAct_Pro/`

入力例: `http://192.168.1.100:8080 /PowerAct_Pro/`

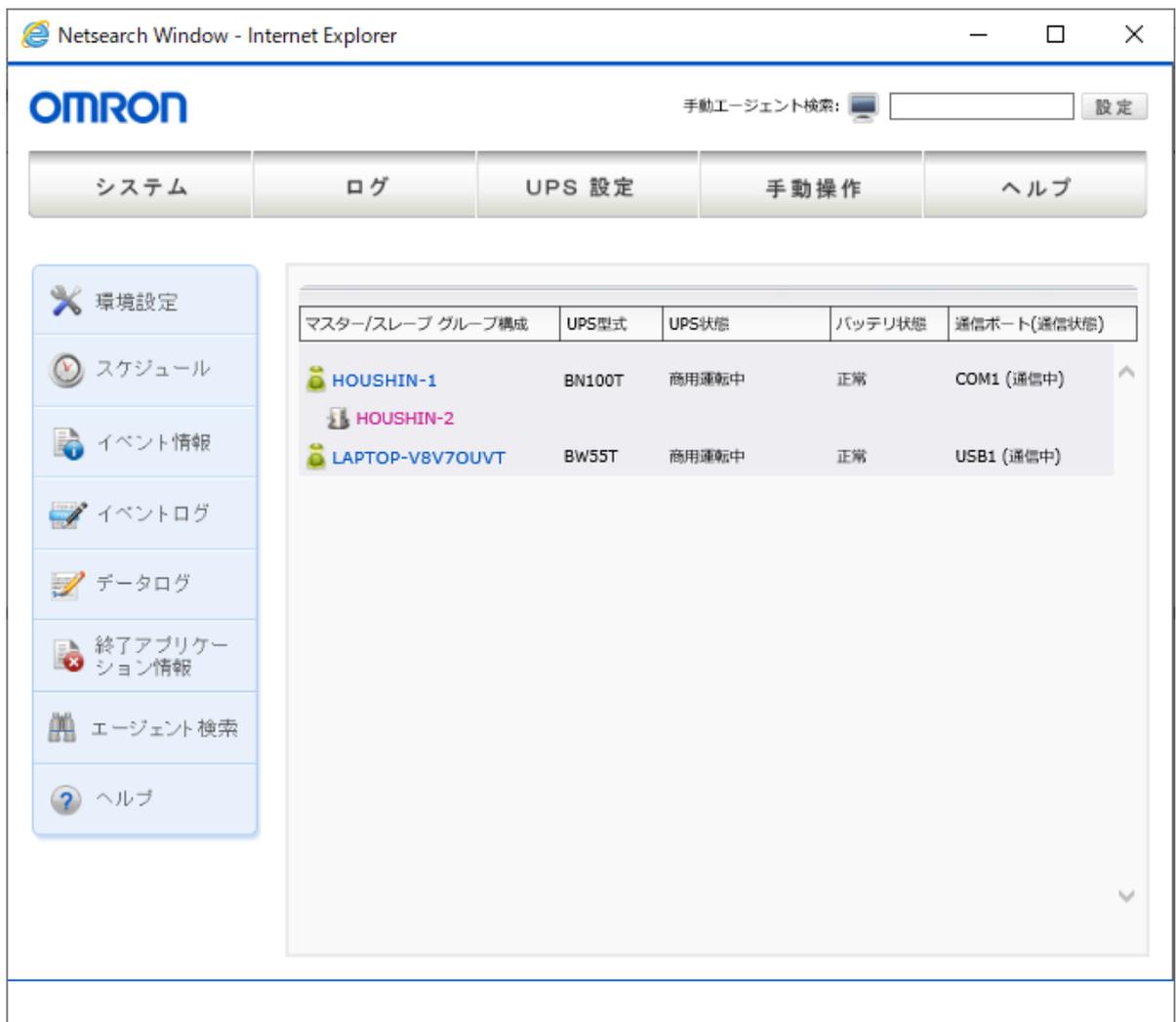
【備考】

コンピュータの IP アドレス: `***.***.***.***`

ネットワークポートアドレス: `****`

- ② ネットワーク上の PowerAct Pro エージェントの一覧が表示されます。
- ③ マスターエージェントの名前をクリックします。
各エージェントを示すアイコンは次のとおりです。

アイコン	エージェント
	マスターエージェント
	スレーブエージェント



- ④ [ログイン]画面で、PowerAct Pro マスターエージェントのインストール中に設定したログイン ID(ユーザ名)とパスワードを入力し、[設定]ボタンをクリックします。

<日本語>

ログインID:

パスワード:

PowerAct Pro モニタのメイン画面が表示されます

Power Act Pro Monitor HOUSHIN-1 (フルアクセス) - Internet Explorer

OMRON 手動エージェント検索: 検索

システム ログ UPS 設定 手動操作 ヘルプ

日時: 2020年12月26日 14:30:34 次回のバッテリー交換: 2019-02-09 現在の日付は、バッテリー交換日を過ぎています
 前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2020年12月26日

✂ 環境設定

🕒 スケジュール

📄 イベント情報

📖 イベントログ

📝 データログ

🛑 終了アプリケーション情報

🔍 エージェント 検索

🔗 ヘルプ

UPS型式:	BN50T	ブザー:	ならさない
UPS状態:	商用運転中	ファンクションテストステータス:	する
出力コンセントA (制御なし):	出力中	バッテリー自動テスト:	しない
出力コンセントB (制御あり):	未対応	UPSコールドスタート機能:	しない
出力コンセントC (制御あり):	未対応	出力電圧/入力感度:	100 V/標準感度
バッテリー状態:	正常	UPS自動再起動:	する
増設バッテリー:		通信ポート:	COM 1 <input type="button" value="設定"/>
		テスト結果:	<input type="text"/>

入力電圧:	40 60 80 100 120 140	101.6 V
出力電圧:	40 60 80 100 120 140	102.2 V
入力周波数:	40 45 50 55 60 65	49.9 Hz
出力周波数:	40 45 50 55 60 65	49.9 Hz
接続容量:	0 25 50 75 100 125	0 %
バッテリー容量:	0 25 50 75 100 125	100 %

次回のシャットダウン (日時):	次回のUPS起動 (日時):
推定バックアップ時間: 5409 分	

2020-12-26 14:28:23 通信確立 [UPS (型式: BN50T / 通信ポート: COM 1)] UPSと通信を開始しました。

3. 4 自動シャットダウン動作

3. 4. 1 自動シャットダウン動作の流れ

PowerAct Pro は、次のイベントが発生すると自動シャットダウン動作を開始します。

これらのイベントが発生すると、本ソフトウェアはOSを自動シャットダウンさせ、UPSを自動停止します。

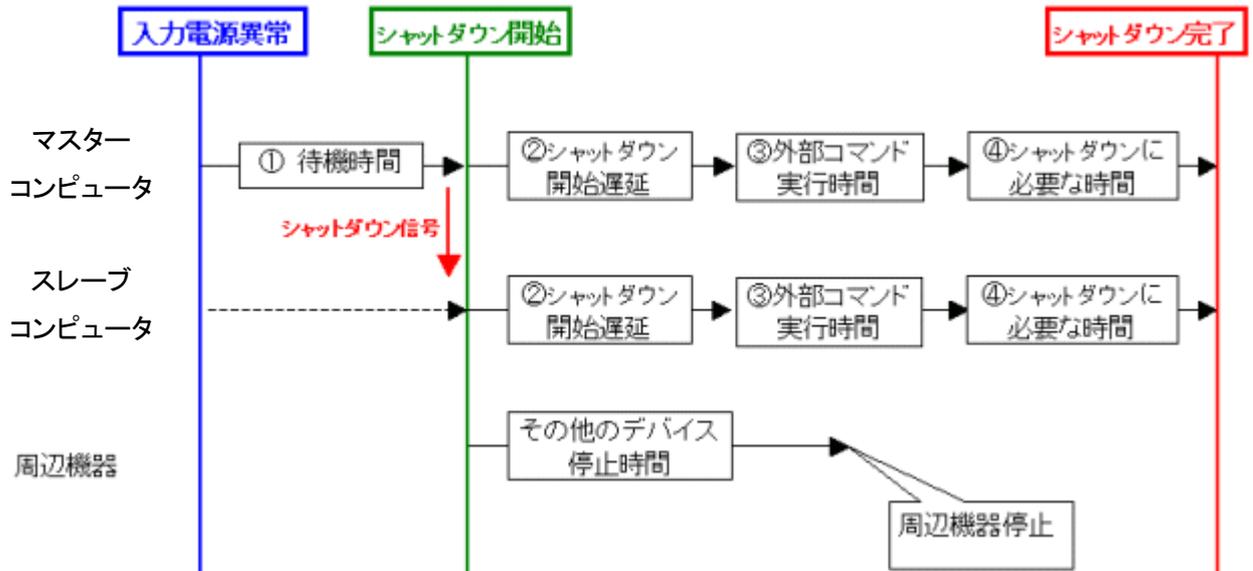
【UPS からの自動シャットダウン操作】

- 「入力電源異常」の情報を UPS から受け取ったとき
- 「バッテリーロー」の情報を UPS から受け取ったとき

【ユーザ設定による自動シャットダウン操作】

- スケジュール設定による自動シャットダウンを実行したとき
- 即時自動シャットダウンを実行したとき

自動シャットダウン動作は次の図の順序で進行します。PowerAct Pro Master Agent がインストールされたマスターコンピュータ、PowerAct ProSlave Agent がインストールされたスレーブコンピュータ、およびその他のデバイスがUPSに接続されている場合の自動シャットダウンの流れについて説明します。



入力電源異常	入力電源異常(停電など)が発生しました。UPS から接続している機器へ電力供給を開始します。
①待機時間	入力電源異常(停電など)を検出しても、設定されている時間を経過しなければ、自動シャットダウンを開始いたしません。 待機時間中に UPS のバッテリーが「バッテリーロー」になった場合は、待機時間が経過していなくても直ちに自動シャットダウン開始を実行します。 待機時間中に、スケジュール運転開始時間になった場合は、待機

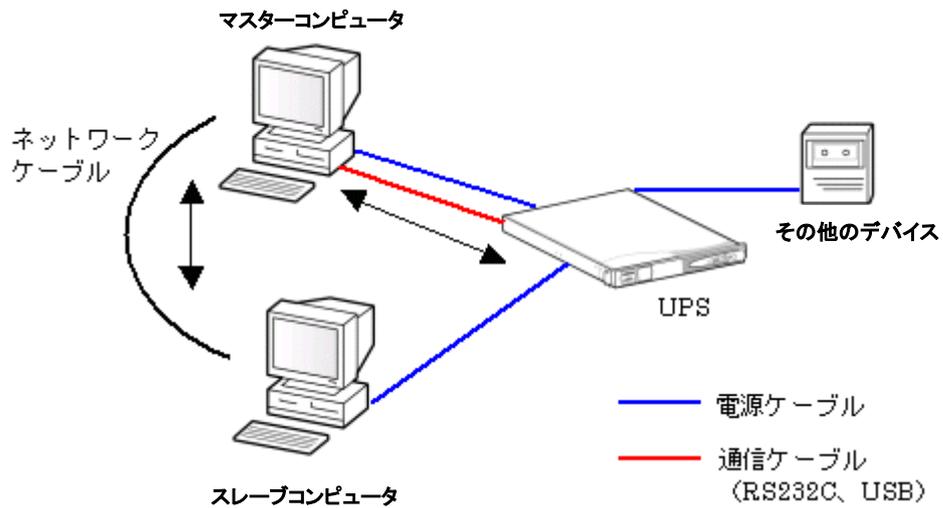
	<p>時間が経過していなくても、直ちに自動シャットダウン開始を実行します。</p> <p>【注意】 この時間を長く設定した場合は、UPS の内部バッテリーを消耗し、バックアップ能力がなくなります。この場合、システムを正常に自動シャットダウンする前に UPS が停止してしまう場合があります。</p>
自動シャットダウン 開始	<p>待機時間を経過しても入力電源異常(停電など)が回復しなかったので、自動シャットダウンを開始します。Master Agent の自動シャットダウン動作にあわせて、Master Agent は Slave Agent に対してネットワーク経由で自動シャットダウン信号を送信します。Slave Agent は、設定されている時間設定(以下の②～④)に従って自動シャットダウン動作を開始します。</p> <p>【注意】 「自動シャットダウン開始」後、入力電源が回復すると、UPS はバックアップ運転から商用運転に戻りますが、OS の自動シャットダウンと UPS の自動シャットダウンは行います。UPS が停止するまでは、コンピュータの電源を入れないようにしてください。</p>
②自動シャットダウン 開始 遅延	<p>自動シャットダウン開始後、さらに自動シャットダウン開始を遅延させたい場合に、遅延時間を設定してください。例えば、自動シャットダウン開始してから1分後に自動シャットダウンを開始したい場合は、この遅延時間を 60 秒に設定してください。</p>
③外部コマンド実行 時間	<p>外部コマンドを設定した時間だけ実行することができます。設定した時間が経過するまでは、次の動作(アプリケーション終了や OS 自動シャットダウン処理)を行いません。Hyper-V を使用する場合は、ゲスト OS が終了するのに十分な時間を設定してください。</p>
④自動シャットダウン に必要な時間	<p>アプリケーションソフトと OS の自動シャットダウンにかかる時間を設定してください。</p> <p>【注意】 システムを正常に自動シャットダウンする前に UPS が停止するような場合は、この時間を現在設定している時間より長く設定してください。</p>
自動シャットダウン 完了	<p>設定した時間が経過したので、UPS を停止しました。</p>
その他のデバイス 停止までの時間	<p>その他のデバイス(例えば、ルータ、モデム、など)の電源を切る時間を設定することができます。</p>

3. 4. 2 自動シャットダウン動作の設定例

マスター/スレーブ構成のネットワークシステムおよび冗長電源システム使用時の自動シャットダウン動作の設定例を紹介します。

ケース 1: コンピュータ 2 台を UPS1 台に接続する。

【接続構成】



【事例】

自動シャットダウンを行う場合は、スレーブコンピュータ→マスターコンピュータ→その他のデバイスの順で自動シャットダウンしたい。

システムを起動するときは、その他のデバイス→マスターコンピュータ→スレーブコンピュータの順で起動したい。

【インストールするソフトウェア】

PowerAct Pro Master Agent をマスターコンピュータにインストールする。

PowerAct Pro Slave Agent をスレーブコンピュータにインストールする。

【設定手順】

- ① [環境設定]-[自動シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]でマスターコンピュータを選択して設定を行います。(プルダウンにはコンピュータ名が表示されます)

シャットダウンパラメータ - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

エージェント選択 設定

UPS出力コンセント選択 出力コンセントB (制御あり) ▼

待機時間 60 ▼ 秒

シャットダウン開始遅延 60 ▼ 秒

外部コマンドライン

外部コマンド実行時間 0 ▼ 秒

シャットダウンに必要な時間 60 ▼ 秒

OS終了モード 「シャットダウン」で終了する ▼

仮想サーバ終了モード: 「PowerAct Pro」が終了する ▼

ゲストOS終了モード: 「休止状態」で終了する ▼

UPS自動停止 する ▼

設定 キャンセル

- [UPS 出力コンセント選択]
マスターコンピュータを接続している UPS の出力コンセントを選択します。
- [待機時間]
入力電源異常が発生してから自動シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。
- [シャットダウン開始遅延]
設定された時間だけさらに自動シャットダウン動作を遅延することができます。
- [外部コマンドライン]
自動シャットダウンを開始する前に実行したいコマンドがある場合は設定します。
- [外部コマンド実行時間]
外部コマンドを実行したい場合に、その外部コマンドを実行するために必要な時間を設定します。
- [シャットダウンに必要な時間]
OS の自動シャットダウンに必要な時間を設定します。
- [OS 終了モード]
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。

- [仮想サーバ終了モード]
システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。
- [ゲスト OS 終了モード]
ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するかを選択します。
- [UPS 自動停止]
コンピュータの自動シャットダウン後、UPS を自動停止するかどうかを選択する機能です。

① [環境設定]－[シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]でスレーブコンピュータを選択して設定を行います。(プルダウンにはコンピュータ名が表示されます)

- [UPS 出力コンセント選択]
マスターコンピュータを接続している UPS の出力コンセントを選択します。
- [待機時間]
入力電源異常が発生してから自動シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。
- [シャットダウン開始遅延]
設定された時間だけさらに自動シャットダウン動作を遅延することができます。
- [外部コマンドライン]
自動シャットダウンを開始する前に実行したいコマンドがある場合は設定します。

- [外部コマンド実行時間]
外部コマンドを実行したい場合に、その外部コマンドを実行するために必要な時間を設定します。
- [シャットダウンに必要な時間]
OS の自動シャットダウンに必要な時間を設定します。
- [OS 終了モード]
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
- [仮想サーバ終了モード]
システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。
- [ゲスト OS 終了モード]
ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するかを選択します。
- [UPS 自動停止]
コンピュータの自動シャットダウン後、UPS を自動停止するかどうかを選択する機能です。

【備考】

- PowerAct Pro Slave Agent がインストールされているコンピュータが複数台ある場合には「シャットダウンパラメータ」の画面に複数台分の PowerAct Pro Slave Agent の設定画面が自動的に追加されます。
- 設定を完了すると、設定内容はネットワークを経由して PowerAct Pro Slave Agent と PowerAct Pro Master Agent に自動的に登録されます。

- ② [環境設定]—[シャットダウンパラメータ]の[その他のデバイス]を選択して設定を行います。

Other Device - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

その他のデバイス停止時間

出力コンセントA (制御なし)	60	秒
出力コンセントB (制御あり)	60	秒
出力コンセントC (制御あり)	0	秒

入力電源異常時の最大バックアップ時間

入力電源異常時の最大バックアップ時間	0	分
--------------------	---	---

設定 キャンセル

- [その他のデバイス停止時間]
その他のデバイスを接続しているUPSの出力コンセントの停止時間を入力します。
- [入力電源異常時の最大バックアップ時間]
入力電源異常(停電など)が発生した場合に、UPSが一定時間バックアップ運転をした後、自動停止するまでの時間です。

- ③ [環境設定]—[UPS 起動/再起動]を選択して設定を行います。

UPS Boot/Reboot Setting - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> UPS起動/再起動

UPS再起動設定

Ping監視設定

UPS再起動設定

UPS自動再起動 する

UPS起動遅延時間 5 秒

バッテリー容量 0%

UPS起動時の出力開始遅延時間

出力開始遅延コマンド送信 する

出力コンセントA (制御なし)

出力コンセントB (制御あり) 60 秒

出力コンセントC (制御あり) 120 秒

UPSコールドスタート

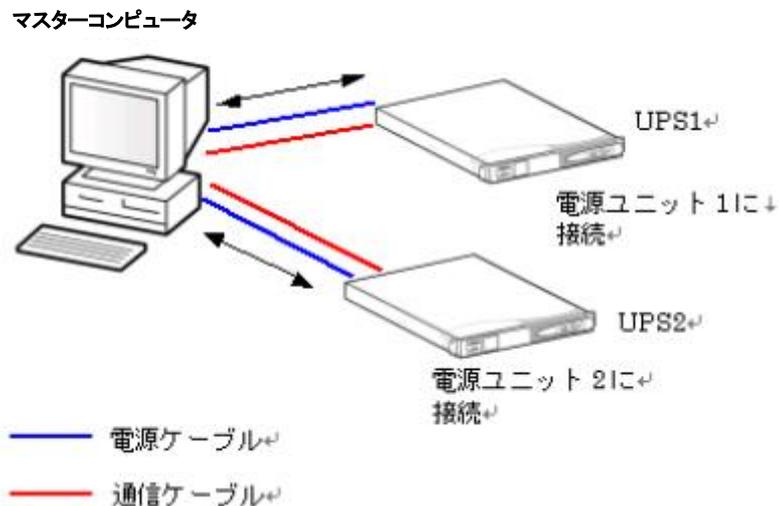
UPSコールドスタート機能 しない

設定 キャンセル

- [UPS 再起動設定]
入力電源異常により自動停止した UPS を、入力電源が復電した時に自動再起動するかどうかを設定します。
- [UPS 起動時の出力開始遅延時間]
UPS が再起動したときに、出力コンセントの出力を開始する時間を設定します。
- [UPS コールドスタート]
AC 電源のない所でも、UPS を起動して出力を開始させる機能です

ケース 2: コンピュータ 1 台に UPS 2 台を接続する。

【接続構成】



【事例】

2 台の UPS が停電になった時に自動シャットダウンを開始したい。自動シャットダウンを行う場合は、必ず外部コマンドを実行して自動シャットダウンを行いたい。

【インストールするソフトウェア】

PowerAct Pro Master Agent をマスターコンピュータにインストールします。

【エージェント自動検索画面の表示】

エージェント自動検索画面には、PowerAct Pro Master Agent に対して 2 台の UPS の型式や UPS の状態やバッテリー状態や通信状態などが表示されます。

【PowerAct Pro モニタ画面の表示】

PowerAct Pro モニタ画面の「通信ポート」を変更し、「設定」ボタンをクリックすると、各 UPS の状態をモニタ画面上で確認することができます。

【設定手順】

2 台の UPS は、各種設定内容を共有して使用します。

- ① [環境設定]—[シャットダウンパラメータ]の[エージェント選択]でマスターコンピュータを選択して設定を行います。(プルダウンにはコンピュータ名が表示されます)

【注意】

- 冗長電源システムとして使用する場合は、必ず同一機種を使用してください。
- マスターコンピュータの電源コードは、各 UPS とも同じ出力コンセントに接続してください。

シャットダウンパラメータ - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> シャットダウンパラメータ

エージェント選択

UPS出力コンセント選択

待機時間

シャットダウン開始遅延

外部コマンドライン

外部コマンド実行時間

シャットダウンに必要な時間

OS終了モード

仮想サーバ終了モード

ゲストOS終了モード

UPS自動停止

設定

キャンセル

- [UPS 出力コンセント選択]
マスターコンピュータを接続している UPS の出力コンセントを選択します。
- [待機時間]
入力電源異常が発生してから自動シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。
- [シャットダウン開始遅延]
設定された時間だけさらに自動シャットダウン動作を遅延することができます。

- [外部コマンドライン]
自動シャットダウンを開始する前に実行したいコマンドがある場合は設定します。
- [外部コマンド実行時間]
外部コマンドを実行したい場合に、その外部コマンドを実行するために必要な時間を設定します。
- [シャットダウンに必要な時間]
OS の自動シャットダウンに必要な時間を設定します。
- [OS 終了モード]
Windows の終了モード「シャットダウン」または「休止状態」を選択する機能です。
- [仮想サーバ終了モード]
システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。
- [ゲスト OS 終了モード]
ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するか選択します。
- [UPS 自動停止]
コンピュータの自動シャットダウン後、UPS を自動停止するかどうかを選択する機能です。

4. PowerAct Pro モニタ

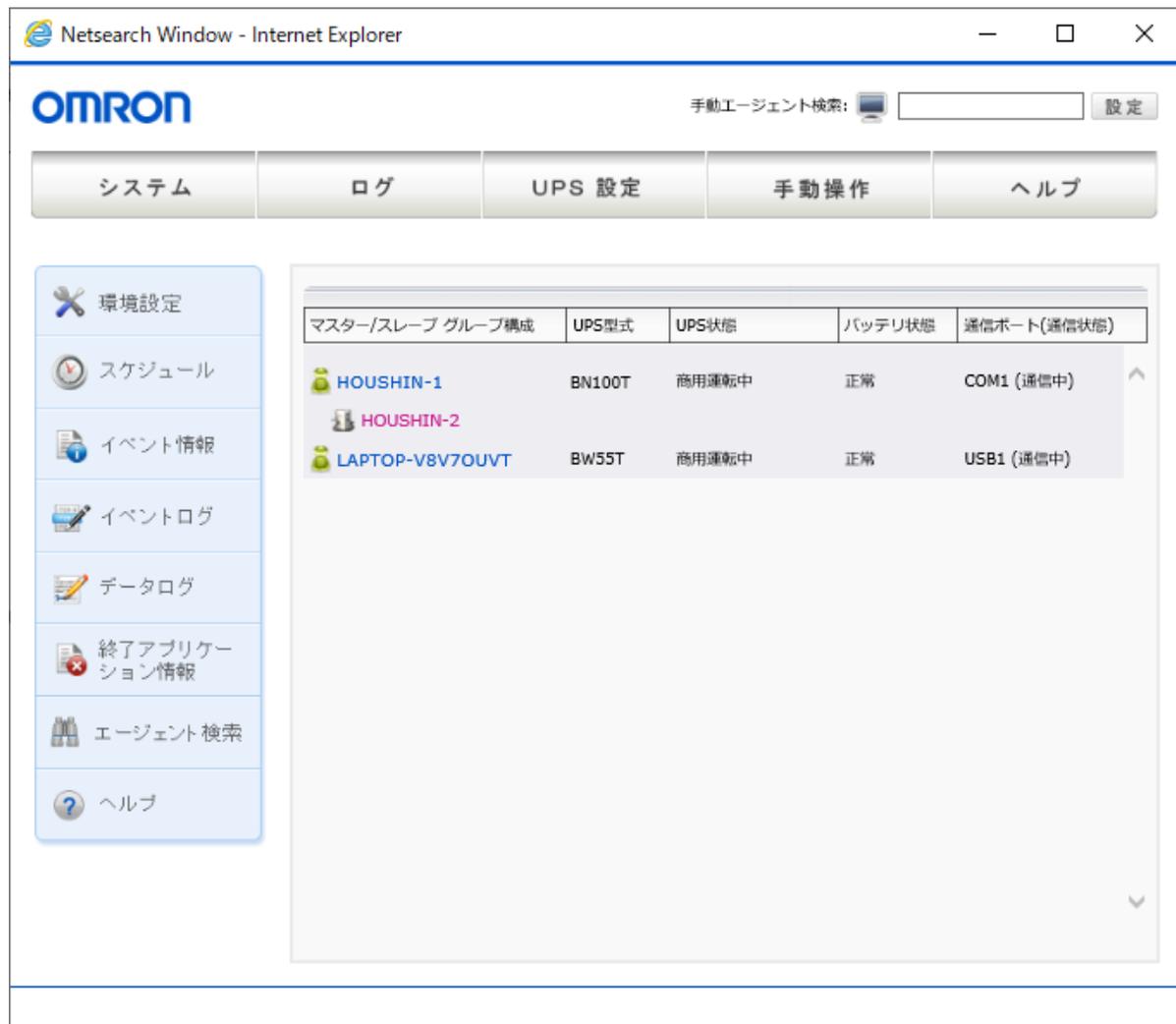
4. 1 モニタメニュー

4. 1. 1 システム

4. 1. 1. 1 エージェント自動検索

同一ネットワーク内のエージェントが自動検索され、[エージェント自動検索]画面に表示されます。

[エージェント自動検索]画面



The screenshot shows the 'Netsearch Window - Internet Explorer' interface. At the top, there is the OMRON logo and a search input field labeled '手動エージェント検索:' with a '設定' button. Below this is a navigation bar with buttons for 'システム', 'ログ', 'UPS 設定', '手動操作', and 'ヘルプ'. On the left side, there is a vertical menu with icons and labels: '環境設定', 'スケジュール', 'イベント情報', 'イベントログ', 'データログ', '終了アプリケーション情報', 'エージェント 検索', and 'ヘルプ'. The main content area displays a table with the following data:

マスター/スレーブ グループ構成	UPS型式	UPS状態	バッテリー状態	通信ポート(通信状態)
HOUSHIN-1	BN100T	商用運転中	正常	COM1 (通信中)
HOUSHIN-2				
LAPTOP-V8V7OUVT	BW55T	商用運転中	正常	USB1 (通信中)

[エージェント自動検索]画面の表示項目の内容は次のとおりです。

表示	内容
マスター/スレーブ グループ構成	エージェント名、マスター、スレーブの区分、グループ構成が表示されます。
UPS 型式	接続されている UPS の型式が表示されます。
UPS 状態	UPS の運転状態が表示されます。
バッテリー状態	バッテリーの状態が表示されます。
通信ポート(通信状態)	通信ポートの動作状態が表示されます。
アドレス入力欄	マスターエージェントがインストールされたコンピュータの IP アドレスを入力して[Enter]キーを押すと、指定したマスターが存在する場合、[ログイン]画面が表示されます。 指定したマスターエージェントが検出されない場合は、エラーメッセージが表示されます。

4. 1. 1. 2 環境設定

(1)シャットダウンパラメータ

[シャットダウンパラメータ]設定では、自動シャットダウンに関する時間や警告メッセージを表示するタイミングを設定します。ご使用のシステムに適した時間を設定してください。

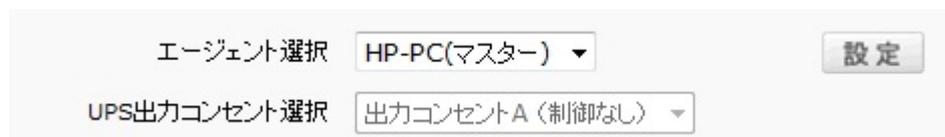
[シャットダウンパラメータ]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択するか、左側のメニューから[環境設定]を選択します。
- ③ [シャットダウンパラメータ]画面が表示されます。

[エージェント選択]画面



- ④ 自動シャットダウンパラメータを設定するマスターまたはスレーブを選択します。[エージェント選択]のプルダウンメニューに表示されるリストから選択してください



項目	設定内容と方法
UPS 出力コンセント 選択	<p>接続している負荷をどの出力コンセントに接続するか選択します。出力コンセントは、制御できるコンセントとできないコンセントがあります。</p> <p>[注意] 出力コンセント制御をサポートしていない UPS をご使用する場合は、この機能は使用できません。</p>
待機時間	<p>入力電源異常が発生してから自動シャットダウン動作を開始するまでの待機時間を秒単位で設定します。</p> <p>0～36000秒の範囲で選択できます。(デフォルトは60秒。0～60秒までは10秒間隔、60～36000秒までは60秒間隔)</p>

シャットダウン開始遅延	自動シャットダウン開始後に、さらに自動シャットダウン開始を遅延させたい場合に、この時間を設定します。 60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 0 秒)
外部コマンドライン	自動シャットダウン動作が開始されるのと同時に起動されるプログラムを指定します。例えば、バックアップデータを特定のディスクに保存するなどのプログラムが考えられます。
外部コマンド実行時間	外部コマンドの実行に必要な時間を設定します。60 秒間隔で 0～600 秒の範囲で設定できます。 なお、この時間が経過するまでは、自動シャットダウン動作を一時停止します。(デフォルトは 0 秒)
シャットダウンに必要な時間	OS の自動シャットダウンに必要な時間を設定します。 60 秒間隔で 0～1800 秒の範囲で選択できます。(デフォルトは 180 秒)
OS 終了モード	終了モードを「シャットダウン」と「休止状態」から選択します。 ※ Windows OS のバージョンによっては、「休止状態」によるシャットダウンが正常に動作しない場合があります。この場合は、OS 終了モードを「シャットダウン」に設定してご使用ください。
仮想サーバ終了モード	システムと PowerAct Pro のどちらの設定により終了するかを選択します。 本機能は、Hyper-V に対応した OS で使用できます。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS をシャットダウンと休止状態のどちらで終了するか選択します。 本機能は、Hyper-V に対応した OS で使用できます。
UPS 自動停止	コンピュータの自動シャットダウンが完了した後、UPS を自動的に停止させるかどうかを設定します。
[デフォルト]ボタン	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

【注意】

「自動シャットダウン開始遅延」+「外部コマンド実行時間」+「自動シャットダウンに必要な時間」の合計時間は、出力コンセント制御機能のない UPS では最大 600 秒、出力コンセント制御機能のある UPS では最大 1800 秒に制限されます。

Hyper-V(仮想化環境)で使用される場合、「外部コマンド実行時間(秒)」は、仮想 OS の自動シャットダウンに必要な時間以上を設定してください。

- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑥ [冗長電源の設定]を選択します。この画面で冗長電源の方式と必要なパラメータを設定します。

[冗長電源設定]画面

ユニット	通信ポート / UPS型式	出力コンセント
------	---------------	---------

- ⑦ 冗長電源の方式を以下から選択します。

“1+1 または 1+N”冗長電源システム

コンピュータに接続した複数の UPS の内、最低 1 台以上の UPS が正常動作していれば、コンピュータは自動シャットダウン動作を開始しないシステム。すべての UPS で入力電源異常が発生した場合のみ、自動シャットダウン動作を開始します。こちらを選択した場合は、[設定]ボタンをクリックしてから、手順⑧に進んでください。

“N+1”冗長電源システム

無停電源装置(UPS)から電力供給を受けているコンピュータの電源ユニットの数が、“N”台以下になるような場合に、自動シャットダウン動作を開始します。こちらを選択した場合は、コンピュータ搭載電源ユニット数を入力し、[設定]ボタンをクリックします。



項目	設定内容と方法
コンピュータに搭載されている電源ユニット数	コンピュータに搭載されている電源ユニット総数を入力します。値を変更したときは、入力欄の右横にある[設定]ボタンをクリックして動作に必要な電源ユニット数を計算してください。
コンピュータの稼動に必要な電源ユニット数	コンピュータが正常に動作を継続するために必要な電源ユニット数の計算値が表示されます。
ユニット	コンピュータの電源ユニットを表しています。
通信ポート／UPSの型式	各電源ユニットに接続しているUPSの型式と通信ポートを表示します。UPSの型式と通信ポートを選択する場合は、プルダウンリストから選択してください。
出力コンセント	コンピュータの電源ユニットを接続している出力コンセントを指定します。

【注意】

UPS に複数の電源ユニットを接続する際は、電源ユニットの合計供給電力が UPS の供給電力を上回らないように接続してください。

⑧ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑨ [その他のデバイス]を選択し、各コンセントの[その他のデバイス停止時間]を 0～600 秒の範囲で入力欄右側のプルダウンメニューの矢印をクリックして表示されるリストから選択して設定します。

出力コンセント制御機能のない UPS では、出力コンセント B および C の項目は設定できません。

[その他のデバイス]画面

Other Device - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

その他のデバイス停止時間

出力コンセントA (制御なし)	0	秒
出力コンセントB (制御あり)	0	秒
出力コンセントC (制御あり)	0	秒

入力電源異常時の最大バックアップ時間

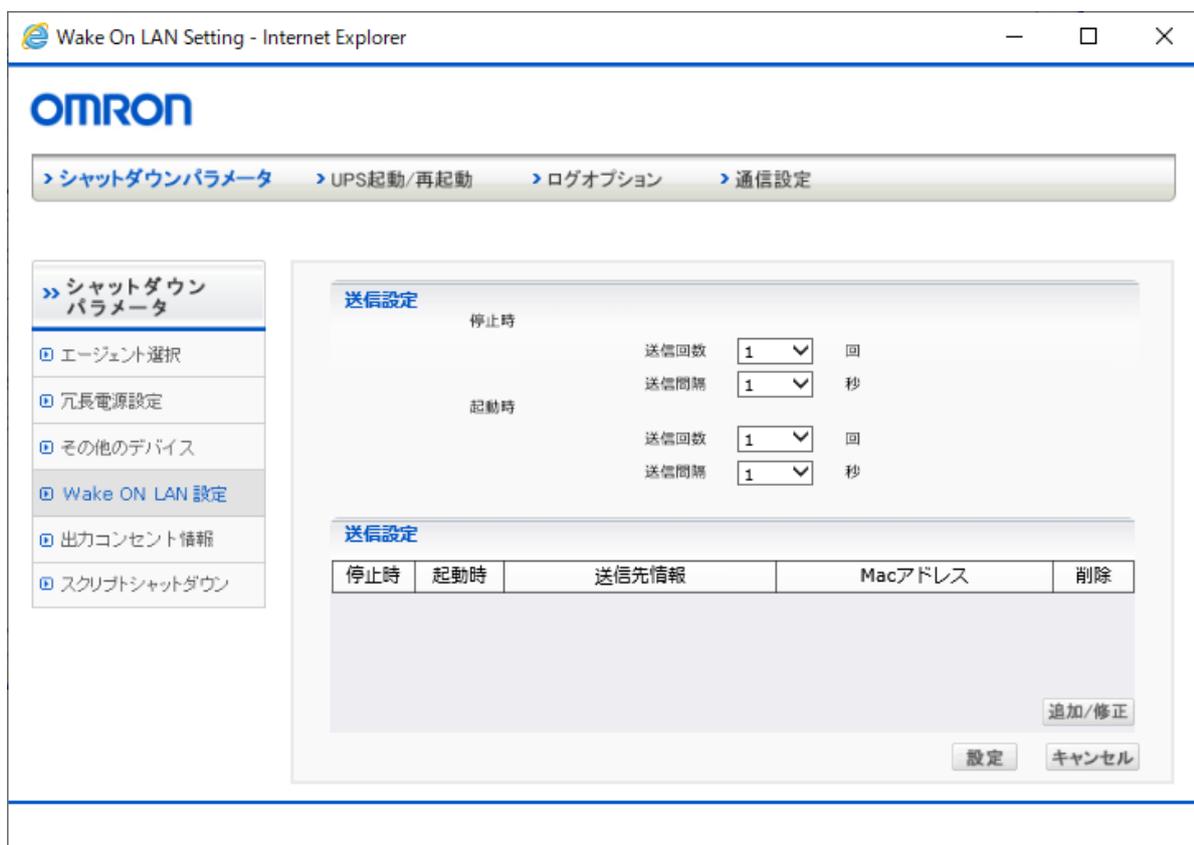
入力電源異常時の最大バックアップ時間 0 分

設定 キャンセル

- ⑩ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑪ [Wake ON LAN 設定]を選択します。この機能を設定すると、あらかじめ Mac アドレスを登録した Wake ON LAN 対応のコンピュータを LAN 経由でスタンバイ状態(休止状態)から回復することができます。
- ⑫ [送信設定]で、Wake On LAN パケットの[送信回数]および[送信間隔]を選択します。
- ⑬ [送信設定]のリストでは、[停止時]または[起動時]にチェックを付けたアドレス宛に Wake On LAN パケットが送信されます。
アドレスをリストから削除する場合は、[削除]ボタンをクリックします。
- ⑭ アドレス情報の登録や修正を行う場合は、[設定]の[追加/修正]ボタンをクリックします。

[Wake On LAN 設定]画面



●登録情報の修正

[Mac アドレス]に直接入力することによって Mac アドレスを修正できます。Mac アドレスを削除する場合は、[選択]のチェックを外して[設定]ボタンをクリックします。

Wake On LAN Add - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

設定

送信先情報	<input type="text"/>
Macアドレス	<input type="text"/> : <input type="text"/>

設定 キャンセル

※ マスターエージェントにログインし、連携しているスレーブエージェントの Mac アドレスは自動的にリストに表示されます。

●登録情報の追加

[追加(新規)]をクリックすると、リストに Mac アドレスを追加できます。

[送信先情報]に送信先を識別する言葉を入力し、[Mac アドレス]に送信先の MAC アドレスを入力します。

[設定]ボタンをクリックすると、上記のアドレス修正リストに送信先が追加されます。

Wake On LAN Modify - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

>> シャットダウンパラメータ

- エージェント選択
- 冗長電源設定
- その他のデバイス
- Wake ON LAN 設定
- 出力コンセント情報
- スクリプトシャットダウン

設定

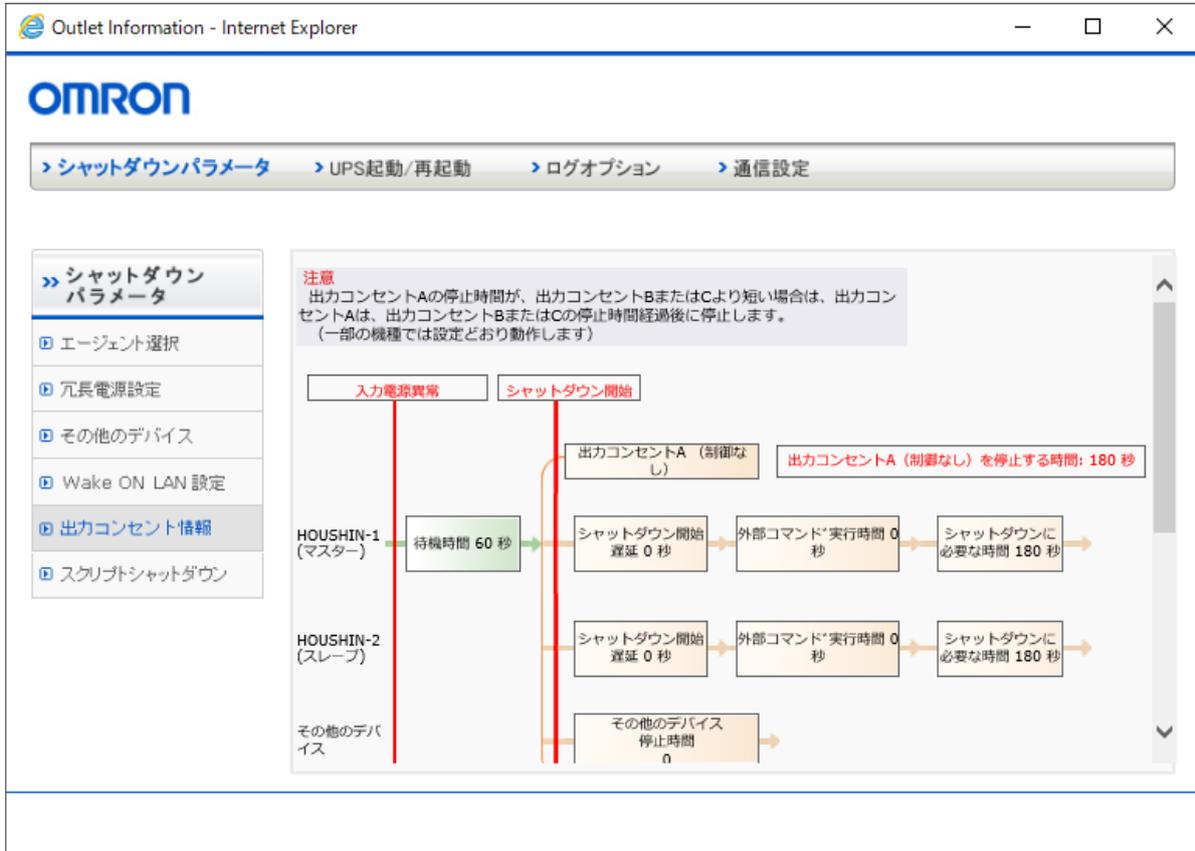
選択	送信先情報	Macアドレス					
<input type="checkbox"/>	HOUSHIN-2	fc	61	98	2d	61	f4

追加(新規)

設定 キャンセル

- ⑮ [出力コンセント情報]を選択します。出力コンセントごとに設定時間のタイミングチャートが表示されるので、設定内容を確認します。確認が終わったら[X](閉じる)ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

[出力コンセント情報]画面



【注意】

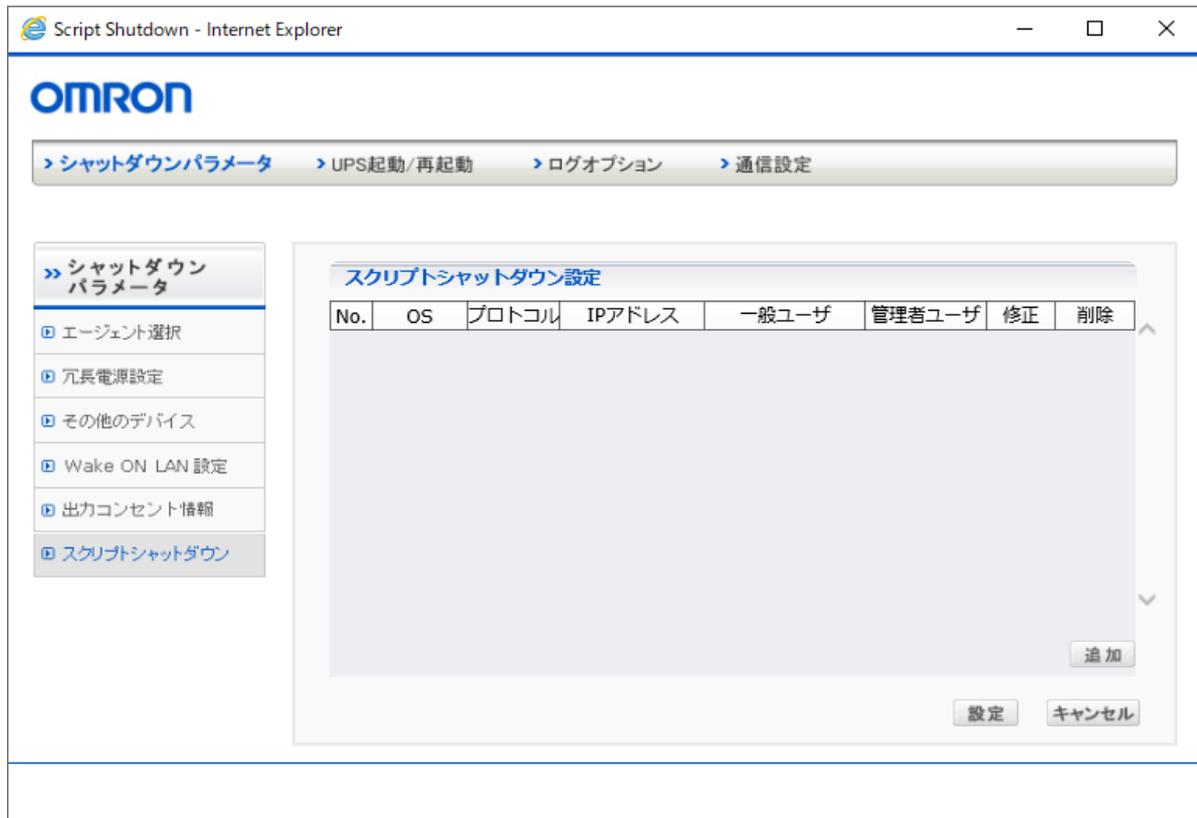
出力コンセント A の停止時間が、出力コンセント B または C より短い場合は、出力コンセント A は、出力コンセント B または C の停止時間経過後に停止します。

以下の機種では出力コンセント A の停止時間は出力コンセント B または C に関わらず設定どおり動作します。

BU75RW / BU100RW / BU200RW / BU300RW

- ⑩ スクリプト自動シャットダウンを選択すると、UPS に接続されている機器に対して直接スクリプトを送信し、スレーブエージェントの有無によらない自動シャットダウン操作の実行を設定する事が出来ます。

[スクリプトシャットダウン]画面



●登録情報の追加

[追加]をクリックするとスクリプト自動シャットダウン設定画面が開きます。スクリプト自動シャットダウンしたい機器に合わせて設定を行ってください。

[設定]ボタンをクリックすると、スクリプト自動シャットダウン設定リストに送信先が追加されます。

項目	設定内容と方法
OS	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器の OS を選択します。
プロトコル	マスターエージェントが使用する通信方法を指定します。 SSH、Telnet の 2 種類に対応しています。
IP アドレス	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器の IP アドレスを入力します。
接続機器名	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器の識別名を任意の文字列で設定します。
一般ユーザ ID	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器のログインに有効な一般ユーザ名を指定します。

一般ユーザパスワード	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器のログインに有効な一般ユーザパスワードを指定します。
管理者ユーザ ID	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器のログインに有効な管理者名を指定します。Linux/Mac/Unix に対し必要であれば入力してください。Windows では不要です。
管理者ユーザパスワード	スクリプト自動シャットダウンを実行したい機器のログインに有効な管理者パスワードを指定します。Linux/Mac/Unix に対し必要であれば入力してください。Windows では不要です。
リトライ回数	ログインに失敗した際の再試行の回数を選択します。
タイムアウト(秒)	ログインの際のタイムアウト時間を任意で設定します。 0 秒から 65536 秒まで設定可能です。
コマンドライン	<p>マスターエージェントが自動シャットダウン動作を開始した際に実行するコマンドラインを指定します。「;」で区切ることで複数のコマンドを設定できます。</p> <p>自動シャットダウンコマンド例:</p> <p>【Windows】 shutdown -s</p> <p>【Linux】 /sbin/halt</p> <p>【Mac】 /sbin/halt</p> <p>【Unix】 /sbin/halt</p>
スクリプトシミュレーション	[テスト]ボタンをクリックすると、設定した内容でテストを実行することができます。

(2)UPS 起動／再起動

[UPS 起動/再起動]設定では、自動シャットダウン後、入力電源異常が回復したときに UPS の再起動方法を設定します。

[UPS 起動/再起動]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [UPS 再起動設定]を選択します

[UPS 再起動設定]画面

The screenshot shows the 'UPS Boot/Reboot Setting' web interface in Internet Explorer. The page title is 'UPS Boot/Reboot Setting - Internet Explorer'. The OMRON logo is visible at the top left. The navigation menu includes 'シャットダウンパラメータ', 'UPS起動/再起動', 'ログオプション', and '通信設定'. The 'UPS再起動設定' section is active, showing the following settings:

- UPS再起動設定
 - UPS自動再起動: する
 - UPS起動遅延時間: 5 秒
 - バッテリー容量: 0%
- UPS起動時の出力開始遅延時間
 - 出力開始遅延コマンド送信: する
 - 出力コンセントA (制御なし): 秒
 - 出力コンセントB (制御あり): 0 秒
 - 出力コンセントC (制御あり): 0 秒
- UPSコールドスタート
 - UPSコールドスタート機能: しない

Buttons for '設定' (Settings) and 'キャンセル' (Cancel) are located at the bottom right of the settings area.

- ④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は次のとおりです。

項目	設定内容と方法
UPS 自動再起動	<p>入力電源異常が回復した後で、UPS を再起動するかどうかを設定します。</p> <p>入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから「する」または「しない」を選択します。</p> <p>[注意] 「設定」スイッチで再起動を指定する UPS では設定できません。</p>
UPS 起動遅延時間	<p>入力電源異常が回復した後で、UPS を再起動するまでの待ち時間を設定します。</p> <p>入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。</p>
バッテリー容量オーバ	<p>UPS に対する接続機器の容量の上限を設定します。</p> <p>入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。</p>
UPS 起動時の出力開始遅延時間	<p>UPS が起動するときに、出力コンセント別に出力遅延時間を秒単位で設定します。</p> <p>ただし、出力コンセント A については 0 秒固定です。</p> <p>例えば、コンピュータ本体が起動する前に電源を入れておきたいその他のデバイスを出力コンセント A に接続し、コンピュータ本体を出力コンセント B または C に接続し遅延時間を設定することによって、起動時間に時差を設けることができます。</p> <p>[注意] 出力コンセント制御機能のない UPS を接続している場合は設定できません。</p>
UPS コールドスタート機能	<p>UPS コールドスタート機能を有効にするかどうかを設定します。</p> <p>入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから「する」または「しない」を選択します。</p>
[デフォルト]	<p>クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。</p>

- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

- ⑥ Ping 監視設定を選択すると、定期的な Ping の送信による、接続された機器類の死活監視を設定することができます。

[Ping 監視設定]画面

ICMP 設定 - Internet Explorer

OMRON

シットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

UPS起動/再起動

UPS再起動設定

Ping監視設定

Ping監視設定

通信ポート: COM 1 設定

試験回数: 1

間隔: 1 分

設定

出カコンセントA

No.	IPアドレス	商品名	スクリプトシャットダウン	合格回数
1	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
2	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
3	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
4	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
5	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
6	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1

Ping監視で異常とする台数 1 動作 異常検出

出カコンセントB

No.	IPアドレス	商品名	スクリプトシャットダウン	合格回数
1	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
2	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
3	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
4	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
5	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
6	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1

Ping監視で異常とする台数 1 動作 異常検出

出カコンセントC

No.	IPアドレス	商品名	スクリプトシャットダウン	合格回数
1	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
2	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
3	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
4	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
5	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1
6	0.0.0.0		<input type="checkbox"/>	1

Ping監視で異常とする台数 1 動作 異常検出

コピー 詳細 設定 キャンセル

- ⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は次のとおりです。

項目	設定内容と方法
通信ポート	どの通信ポートを使用して Ping を送信するかを設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
送信回数	Ping を合計何回送信するかを指定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
間隔	各 Ping 間のインターバル時間を指定します。単位は分です。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
IP アドレス	接続されている機器の IP アドレスを指定します。
商品名	機器の識別名を任意で入力します。
スクリプト自動シャットダウン	スクリプト自動シャットダウンを使用するかどうかを指定します。 使用する場合はチェックを付けて下さい。
合格回数 (Pass Rate)	送信回数で設定した Ping 送信回数の内、何回受信に成功すれば機器を正常とみなすかを指定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
Ping 監視で異常とする 台数	その出力コンセントに接続されている全ての機器の内、何台にエラーが検知された時に選択した動作を実行するか指定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
動作	実行されるアクションを指定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
設定	クリックすると、各項目の設定が確定されます。

- ⑧ [設定]ボタンをクリックします。

(3) ログオプション

[ログオプション]設定では、イベントログやデータログの容量や記録時間間隔などを設定します。[ログオプション]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [イベントログオプション]を選択します。

[イベントログオプション]画面

イベントログオプション - Internet Explorer

OMRON

> シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> ログオプション

□ イベントログオプション

□ データログオプション

イベントログオプション

通知遅延時間 0 秒

最大イベントログ記録時間 15 週

設定 キャンセル

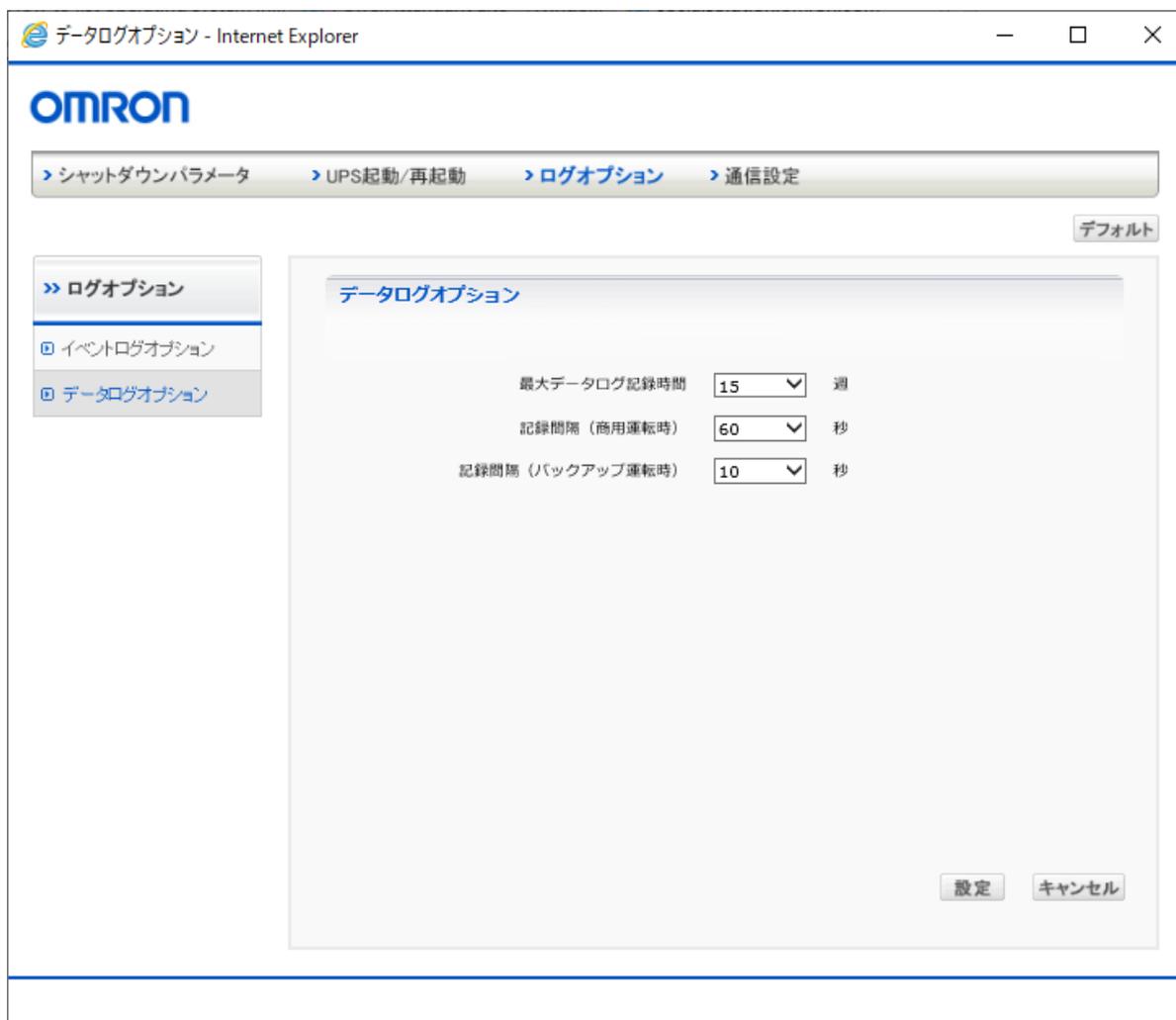
- ④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
通知遅延時間	イベントが発生してからそれをユーザに通知するまでの待ち時間を秒単位で設定します。入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
最大イベントログ記録時間	イベントログの最大保存数を週単位で設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は 1～15 週(デフォルト 15 週)です。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

⑥ [データログオプション]を選択します。

[データログオプション]画面



⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
最大データログ記録時間	データログの最大保存数を週単位で設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は 1～15 週(デフォルト 15 週)です。
記録間隔(商用運転時)	商用電源で運転中のデータログの記録間隔を秒単位で設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は 5～30000 秒(デフォルト 60 秒)です。
記録間隔(バックアップ運転時)	バックアップ運転中のデータログの記録間隔を秒単位で設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。設定範囲は 5～30000 秒(デフォルト 10 秒)です。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

⑧ [設定]ボタンをクリックします。

(4) 通信設定

[通信設定]設定では、通信ポート、ネットワークポートアドレス、ユーザ通知用のメールアドレスを設定します。

[通信設定]設定画面は、次の手順で表示、設定を行います。

- ① [PowerAct Pro モニタ]画面を表示します。
- ② [システム]メニュー→[環境設定]の順に選択します。
- ③ [通信設定]を選択します

[通信設定]画面

Communication Setting - Internet Explorer

OMRON

シットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> 通信設定

通信設定

Mail 設定

SNMP V1 設定

SNMP V3 設定

通信ポート

No.	通信ポート	UPS型式	修正	削除
1	COM 1	BN100T	🔧	💡

ポート追加 自動選択

ネットワークポート設定

HTTPポート

HTTPSポート

SMTPポート

SNMPポート

Syslogポート

SNMP

ブロードキャスト

【備考】
ネットワークポートをクローズしたい場合は、「0」と入力してください。

リモートアクセス禁止

- IPアドレスlocalhostを使用して、マスターエージェントへアクセスしてください。
- 設定を有効にするために、Apache HTTP Serverを再起動します。

ページ設定更新

秒

ログオフ時間

分

設定 キャンセル

- ④ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
ポート追加	クリックすると表示される[通信ポートの追加設定]画面で通信ポートを追加できます。追加した通信ポートは通信ポート一覧に表示されます。
(通信ポート)修正	通信ポート一覧の修正欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートを変更できます。
(通信ポート)削除	通信ポート一覧の削除欄の  マークをクリックするとその欄の通信ポートが削除されます。
自動選択	クリックすると、コンピュータのすべての通信ポートが検索され、見つかった無停電電源(UPS)が通信ポート一覧に表示されます。
ネットワークポート アドレス	ご使用のネットワークの状況に合わせて、HTTP ポートのポート番号を設定します。デフォルトでは 80 を設定します。 また、リモートアクセス禁止することで、リモート PC からの操作を禁止することができます。
ページ更新設定	PowerAct Pro モニタの画面更新間隔を秒単位で設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
ログオフ時間	PowerAct Pro モニタの自動ログオフ時間を設定します。 入力欄右端のプルダウンメニューの矢印をクリックし、表示されるリストから選択します。
デフォルト	クリックすると、各項目にデフォルト値が設定されます。

- ⑤ [設定]ボタンをクリックします。

⑥ [Mail 設定]を選択します。

[Mail 設定]画面

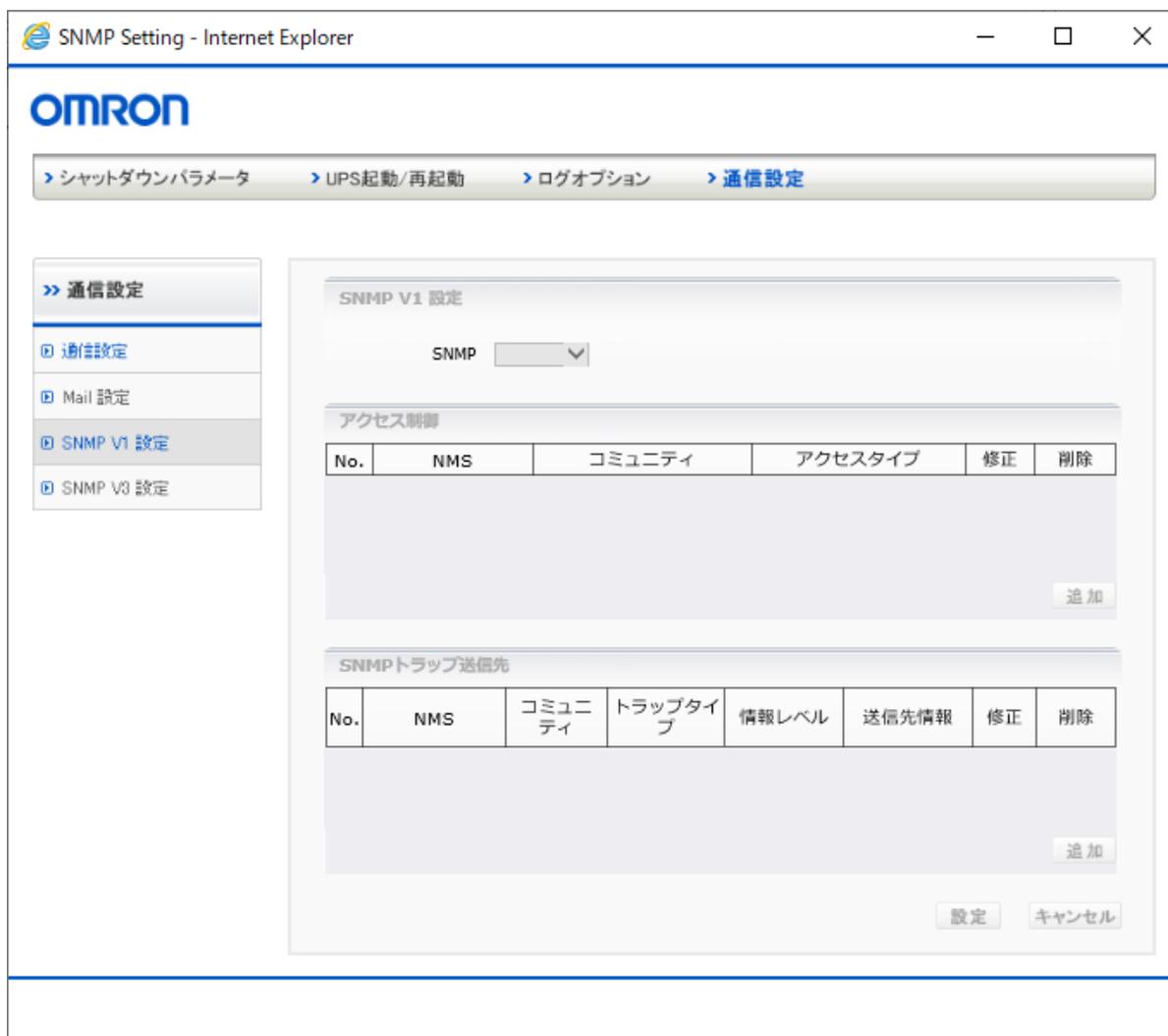
⑦ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
ロケーション	設置場所の名称を入力してください。
コンピュータ名	コンピュータ名を入力してください。
User アカウント	POP 認証の為に User アカウント情報を入力します。
User パスワード	POP 認証の為に User パスワードを入力します。
送信メール(SMTP)サーバ	ユーザへの通知を行うためのメールを送信するサーバを設定します。 【注意】 SMTP 認証のメールサーバではご利用いただけません。
電子メールアドレス	送信元のメールアドレスを設定します。
ドメインネーム	メールサーバが所属するドメイン名を設定します。

⑧ [設定]ボタンをクリックします。

⑨ [SNMP V1 設定]を選択します。

[SNMP V1 設定]画面



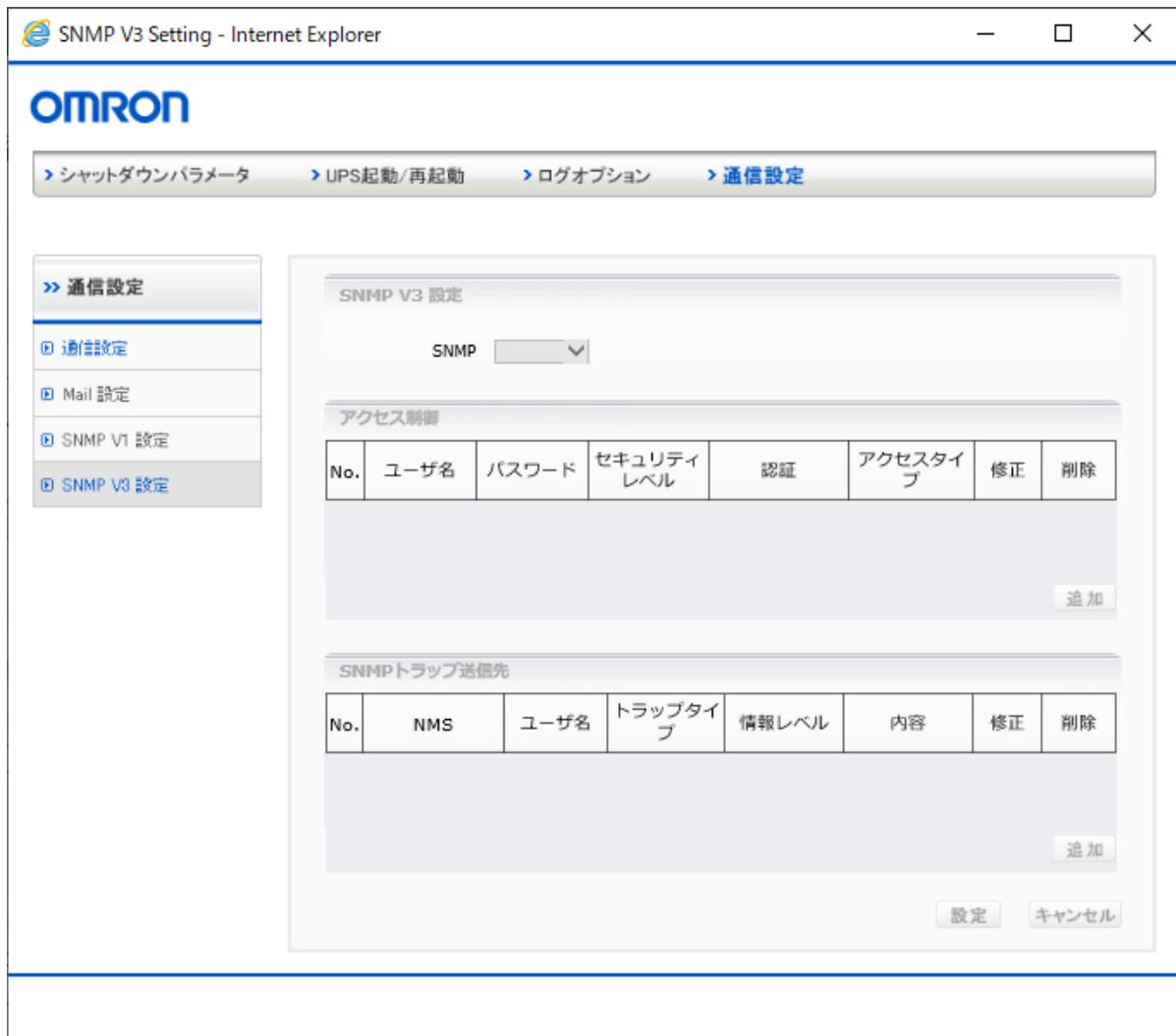
⑩ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
NMS IP Address	NMS の IP アドレスを設定します。0.0.0.0 の場合は設定されていないことを表します。 (例: 192.168.7.255 が設定されている場合は、IP アドレスの 192.168.7.0 から 192.168.7.255 までの範囲が設定されたこととなります。)
コミュニティ	設定された IP アドレスのコミュニティを設定します。
アクセスタイプ	アクセス不可、リード、リード/ライトの 3 種類から設定が可能です。
修正	その欄の通信ポートを変更できます。
削除	その欄の通信ポートが削除されます。

⑪ [設定]ボタンをクリックします。

⑫ [SNMP V3 設定]を選択します。

[SNMP V3 設定]画面



⑬ 表示された設定画面で各項目を設定します。各項目の設定内容と設定方法は、次のとおりです。

項目	設定内容と方法
ユーザ名	SNMP マネージャで設定したユーザ名を入力します。 ※ 設定するセキュリティレベルによって不要場合があります。
パスワード	SNMP マネージャで設定したパスワードを入力します。 ※ 設定するセキュリティレベルによって不要場合があります。
セキュリティレベル	設定したユーザのセキュリティレベルを noAuthNoPriv、authNoPriv、authPriv の 3 種類から設定可能です。通信を行う SNMP マネージャと同一の設定にしてください。
認証	認証方法を HMAC-MD5、HMAC-SHA の 2 種類から設定可能です。通信を行う SNMP マネージャと同一の設定にしてください。
アクセスタイプ	リードオンリー、リード/ライトを選択できます。

修正	その欄の通信ポートを変更できます。
削除	その欄の通信ポートが削除されます。

⑭ [設定]ボタンをクリックします。

4. 1. 1. 3 イベント情報種類

UPS で発生するイベント一覧の表示、イベントを通知するコンピュータ(ユーザ)を指定します。

また、各イベントは発生都度、ネットワークに接続されているコンピュータ(ユーザ)に通知することができます。

【注意】

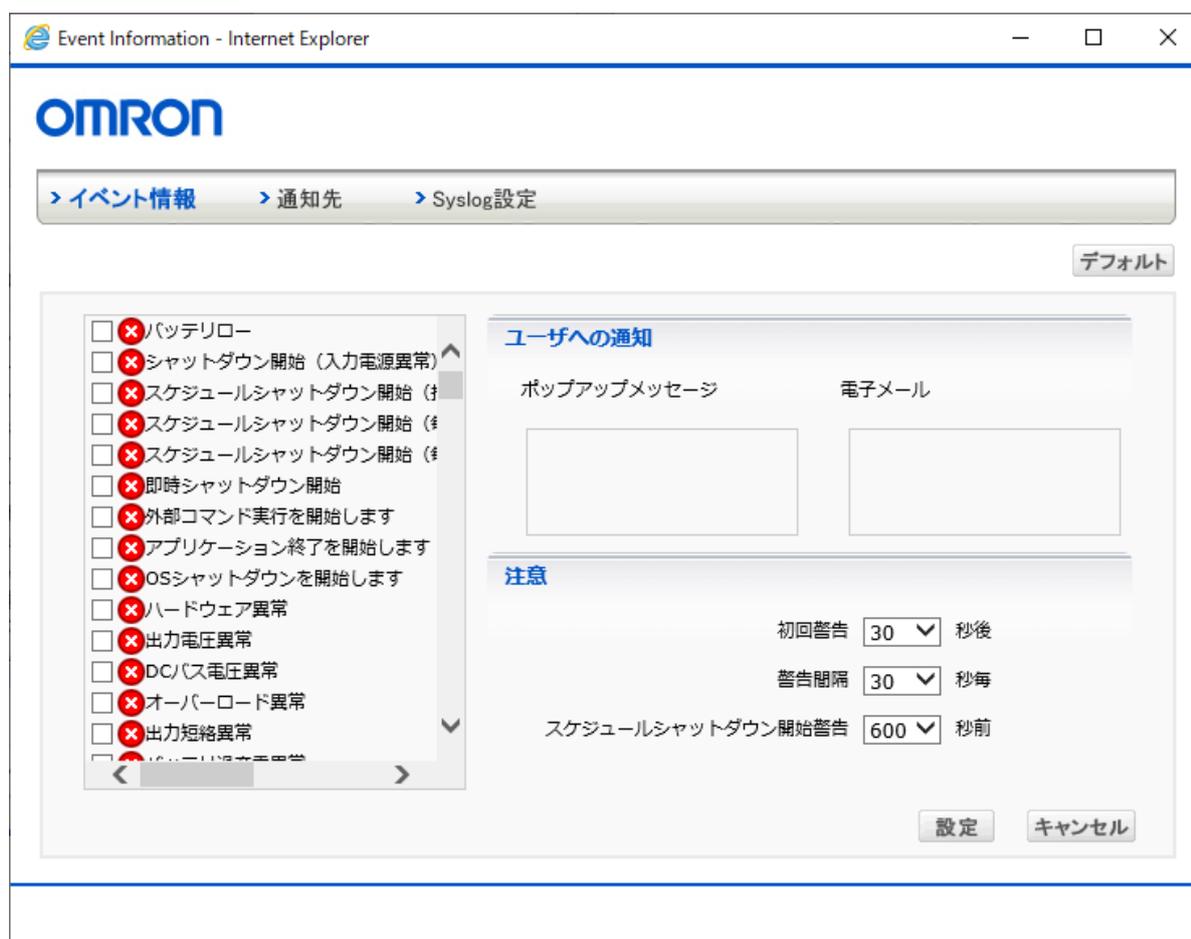
初期設定値は、すべてのイベントが通知されないようになっています。

イベント情報を通知するコンピュータ(ユーザ)の指定

どのイベントをどのコンピュータ(ユーザ)に通知するか指定できます。

設定をする時は、ツールバーの[イベント情報]ボタンをクリックし、次の[イベント情報]画面を表示してください。

[イベント情報]画面



[イベント情報]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	意味								
イベント内容	<p>イベント情報を選択することができます。</p> <p>各イベント情報の内容は、「4.3.1 イベント情報の内容」をご確認ください。</p> <p>各イベント内容の先頭に記載されている記号の意味は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>意味</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>重大</td> </tr> <tr> <td></td> <td>警告</td> </tr> <tr> <td></td> <td>情報</td> </tr> </tbody> </table>	記号	意味		重大		警告		情報
記号	意味								
	重大								
	警告								
	情報								
初回警告	設定した時間経過後に警告メッセージを通知します。								
警告間隔	初回警告後、設定された時間間隔で警告メッセージを表示します。								
スケジュール自動シャットダウン開始警告	スケジュール運転開始前にスケジュール運転開始に関する警告メッセージを表示します。								

イベントメッセージ通知方法について

通知する方法には、ユーザのコンピュータ画面に自動的に表示されるポップアップメッセージを送る方法と、電子メールで送る方法の2種類あります。

ポップアップメッセージで通知する場合は、[ユーザへの通知]の[ポップアップメッセージ]欄に、電子メールで通知する場合は[ユーザへの通知]の[電子メール]欄に、それぞれ表示されているユーザ名をクリックしてください。

通知先の登録

メッセージを通知したいユーザを登録する場合は、[通知先]をクリックしてください。下記の[ユーザ登録情報]画面が表示されます。

この画面には、登録済みの通知先ユーザが一覧表示されます

[ユーザ登録情報]画面

User Record Information - Internet Explorer

OMRON

> イベント情報 > **通知先** > Syslog設定

ユーザ登録情報

ユーザ名	コンピュータ名	電子メールアドレス	修正	削除
user01	OMRON	user@omron.co.jp		

ユーザ追加 キャンセル

ユーザの追加方法は、次のとおりです。

- ① [ユーザ追加]ボタンをクリックします。下記の[ユーザ登録]画面が表示されます。

User Information - Internet Explorer

OMRON

> イベント情報 > 通知先 > Syslog設定

ユーザ情報

ユーザ名: user01

コンピュータ名: OMRON

電子メールアドレス: user@omron.co.jp

ユーザ登録 キャンセル

② ユーザ名、ユーザのコンピュータ名、メールアドレスを必要に応じて入力します。

③ [ユーザ登録]ボタンをクリックします。

[キャンセル]ボタンをクリックした場合は、新規登録したユーザの情報は登録されません。

登録済みユーザを修正する方法は、次のとおりです。

① [ユーザ登録情報]画面で修正したいユーザの  ボタンをクリックします。

② [ユーザ登録]画面が表示されますので、修正したい項目を選択して修正を行ってください。

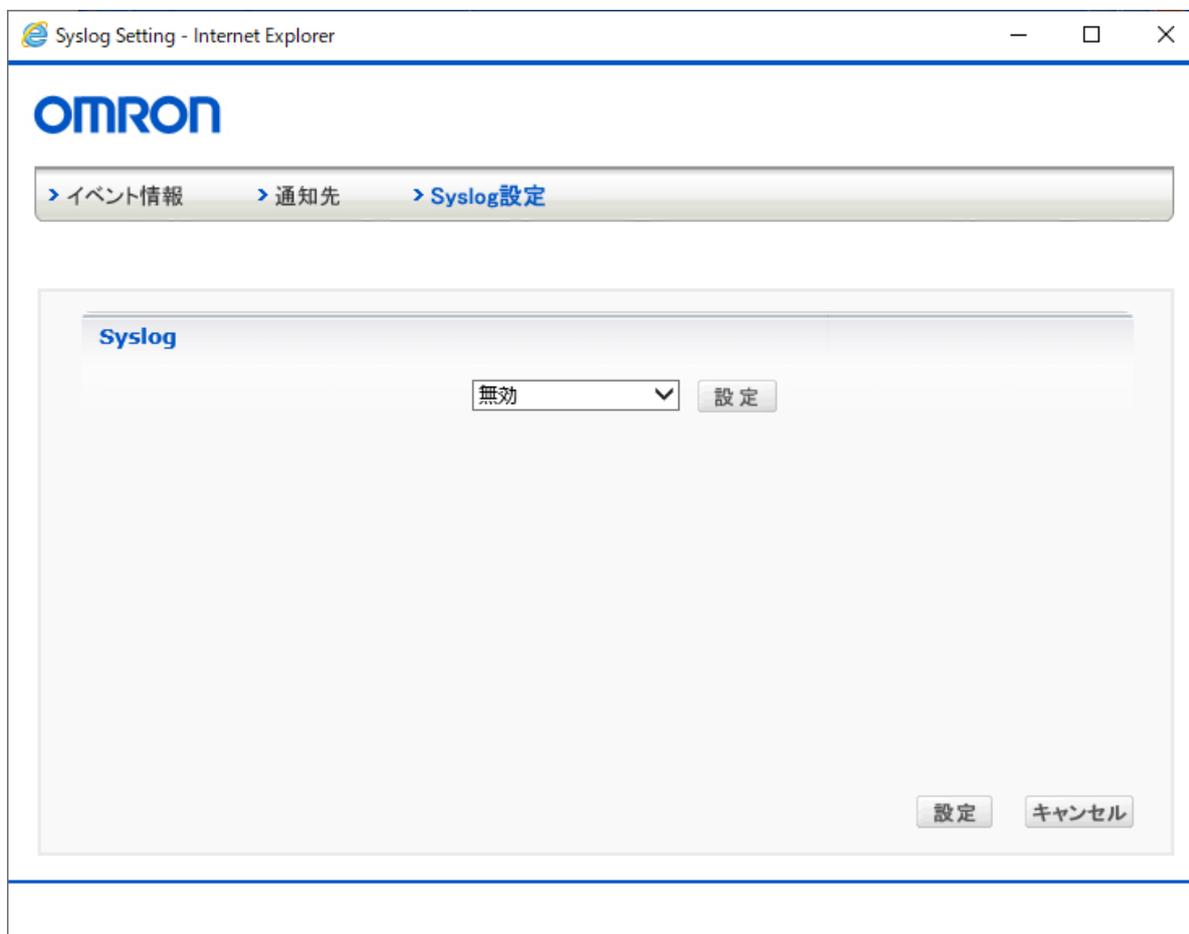
登録済みユーザを削除する方法は、次のとおりです。

① [ユーザ登録情報]画面で削除したいユーザの  ボタンをクリックします。

Syslog の設定

ネットワーク上に設置されている Syslog サーバにログ情報を送信して記録しておくことができます。デフォルトでは[無効]になっています。

プルダウンメニューの矢印をクリックしてから[有効]を選択し、[設定]ボタンをクリックすると Syslog の設定を行うことができます。



Syslog 機能を設定する方法は次のとおりです。

- ① [Syslog 設定]で、Syslog サーバの IP アドレスを入力し、Syslog の Facility(ログの種類)を選択します。Syslog サーバは 2 台まで登録できます。
- ② [プライオリティ設定]で、UPS の 3 種類のログ(警告、注意、情報)の Priority(優先度)を選択します。
- ③ [言語設定]で、サーバに送信されるログの言語を選択します。英語または日本語が選択できます。
- ④ [設定]ボタンをクリックします。



> イベント情報 > 通知先 > Syslog設定

Syslog

有効

Syslog設定

Syslogサーバ1のIPアドレス

Syslogサーバ2のIPアドレス

Facility

プライオリティ設定

警告

注意

情報

言語設定

英語

4. 1. 1. 4 スケジュール

日時を指定し、UPS の停止／起動や UPS の自己診断などを行うことができます。

日時の指定以外に、毎週、毎月という指定もできます。

これらを指定し UPS を使用することをスケジュール運転といいます。

スケジュール運転を一覧表示し、個別に設定変更、削除を行うことができます。

【注意】

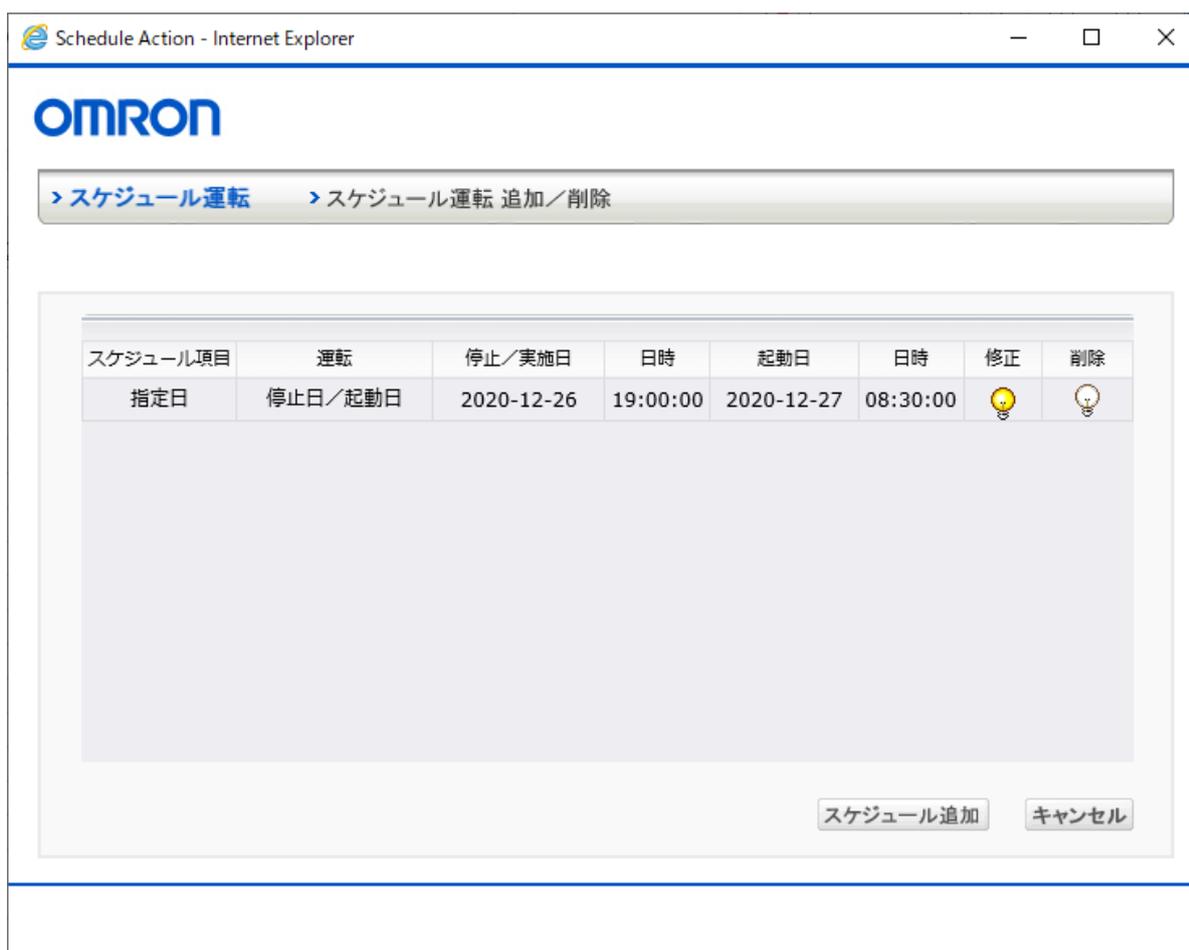
スケジュール運転時に入力電源異常などが発生した場合は、現在のスケジュール運転はキャンセルされ、次のスケジュール運転の設定に従って動作します。

スケジュール運転の一覧表示

スケジュール運転の状況を一覧表示できます。

[スケジュール]をクリックしてください。

[スケジュール運転]画面



Screenshot of the 'Schedule Action' web interface in Internet Explorer. The page shows the OMRON logo and a navigation menu with 'スケジュール運転' (Schedule Operation) selected. Below the menu is a table with columns for 'スケジュール項目' (Schedule Item), '運転' (Operation), '停止/実施日' (Stop/Execution Date), '日時' (Date/Time), '起動日' (Start Date), '日時' (Date/Time), '修正' (Modify), and '削除' (Delete). The table contains one row with the following data: '指定日' (Designated Date), '停止日/起動日' (Stop Date/Start Date), '2020-12-26', '19:00:00', '2020-12-27', '08:30:00', a yellow lightbulb icon, and a grey lightbulb icon. At the bottom right of the table area are two buttons: 'スケジュール追加' (Add Schedule) and 'キャンセル' (Cancel).

スケジュール項目	運転	停止/実施日	日時	起動日	日時	修正	削除
指定日	停止日/起動日	2020-12-26	19:00:00	2020-12-27	08:30:00		

[スケジュール運転]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	内容
スケジュール項目	設定されているスケジュール運転の運転間隔が表示されます。「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されます。
運転	スケジュール運転の運転内容が表示されます。「停止日/起動日」(UPSの停止/起動)、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」のいずれかが表示されます。
停止/実施日	スケジュール運転の停止日付が表示されます。
日時	停止時刻が表示されます。
起動日	スケジュール運転の起動日付が表示されます。
日時	起動時刻が表示されます。
修正	 ボタンをクリックすると、スケジュール運転の設定を変更できます。
削除	 ボタンをクリックすると、設定されているスケジュール運転を削除できます。
スケジュール追加	スケジュール運転を新規追加できます。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転]画面を終了します。

スケジュール運転の追加／修正

スケジュール運転を追加したり、修正したりできます。

[スケジュール運転 追加／削除]をクリックしてください。

[スケジュール運転 追加／削除]画面

Add/Remove Schedule Action - Internet Explorer

OMRON

> スケジュール運転 > スケジュール運転 追加／削除

スケジュール運転項目:

スケジュール運転内容

停止／実施日

日付 時間 :

スケジュール運転 (起動日) を有効にする

起動日

日付 時間 :

[注意]

同日にスケジュール停止／起動を設定する場合、起動日の時刻設定をUPS停止から1分以降に設定してください。
※ UPS停止=[シャットダウン開始遅延]+[外部コマンド実行時間]+[シャットダウンに必要な時間]

[スケジュール運転 追加／削除]画面の各項目の意味は、次のとおりです。

項目	意味
スケジュール運転項目	運転項目欄をクリックすると、プルダウンメニューに「起動日／終了日」、「バックアップ時間テスト」、「自己診断テスト」が表示されるのでクリックして選択します。また、指定日欄をクリックすると、プルダウンメニューに「指定日」、「毎週」、「毎月」が表示されるのでクリックして選択します。
設定	設定した内容でスケジュール運転を登録します。
キャンセル	設定したスケジュール運転を登録しません。[スケジュール運転 追加／削除]画面を終了します。

スケジュール運転の設定方法

ここでは、スケジュール運転の新規追加、修正、削除の設定手順について説明します。

[新規にスケジュール運転を登録する場合の設定手順]

- ① [スケジュール運転]画面の[スケジュール追加]ボタンをクリックします。
- ② [スケジュール運転 追加/削除]画面が表示されます。
- ③ スケジュール運転項目を選択します。

スケジュール運転項目	説明
起動日/終了日	システムを停止させたり起動させたりします。
バックアップ時間テスト	推定バックアップ時間を補正するためのテストです。
自己診断テスト	自己診断テストを実施します。
指定日	指定日にスケジュール運転を実施します。
毎週	毎週 設定されている曜日にスケジュール運転を実施します。
毎月	毎月 設定されている日にスケジュール運転を実施します。

- ④ 停止日または自己診断テストまたはバックアップ時間テストの日付と実施時間を指定します。

[日付]ボタンをクリックするとカレンダーが表示されるので指定する日をクリックしてから[設定]ボタンをクリックしてください。

- ⑤ スケジュール運転に従ってシステムを起動させるまたは起動させないを選択します。選択する場合は、[スケジュール運転(起動日)を有効にする]のチェックボックスをクリックします。

[スケジュール運転に従ってシステムを起動する場合]

起動日と実施時間を指定して、手順 ⑥に進んでください。

[スケジュール運転に従ってシステムを起動しない場合]

起動日と実施時間は指定できません。手順 ⑥に進んでください。

- ⑥ [設定]ボタンをクリックします。
- ⑦ [スケジュール運転]画面に戻りますので、設定したスケジュール運転内容を確認のうえ必ず[設定]ボタンをクリックします。

[設定]ボタンをクリックせずに、[スケジュール運転]画面を終了すると、設定したスケジュール運転は、登録されません

[設定済みスケジュール運転の修正手順]

[スケジュール運転]画面の修正したいスケジュールの  ボタンをクリックします

[設定済みスケジュール運転の削除手順]

[スケジュール運転]画面の削除したいスケジュールの  ボタンをクリックします

注意事項

[スケジュール運転追加／削除]画面において、[スケジュール運転(起動日)を有効にする]を選択できない機種では、以下の設定が必要になります。

- [指定日時に起動させる場合]
[システム]メニュー-->[環境設定]
-->[UPS の起動/再起動]を順に選択し、[UPS の自動再起動]を「する」に設定し、システムが自動再起動するように設定します。
- [指定日時に起動させない場合]
[システム]メニュー-->[環境設定]
-->[UPS の起動/再起動]を順に選択し、[UPS の自動再起動]を「しない」に設定し、システムが自動再起動しないように設定します。

4. 1. 1. 5 ログオフ

PowerAct Pro モニタの表示を終了します。

4. 1. 2 ログ

4. 1. 2. 1 イベントログ

UPS で発生する動作状況(入力電源異常、スケジュール自動シャットダウン、環境設定、バッテリーテストなど)を記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]に取り込むことができます。

[イベントログ]画面

EventTime - Internet Explorer

OMRON

エージェント選択 HOUSHIN-1(マスター) 設定

イベント時間

日時 1週

From 2020 年 12 月 19 日 To 2020 年 12 月 26 日 設定

日時	イベント内容
2020-12-26 16:17:21	「スケジュール運転(指定日)」を削除しました [HOUSHIN-1(マスター) 2020/12/26 19:00:00, UPS再起動 2020/12/27 08:30:00]
2020-12-26 16:13:36	「スケジュール運転(指定日)」を追加しました [HOUSHIN-1(マスター) 2020/12/26 19:00:00, UPS再起動 2020/12/27 08:30:00]
2020-12-26 16:10:10	「Syslog機能」を有効にしました [HOUSHIN-1(マスター)]
2020-12-26 16:08:24	「通知先」を変更しました [HOUSHIN-1(マスター) (追加: user01)]
2020-12-26 16:01:43	通信確立 [UPS(型式: BN100T / 通信ポート: COM 1)] UPSと通信を開始しました。
2020-12-26 16:01:41	エージェントを起動します。

保存 削除 印刷 ログオプション 設定

- [ログ](Log)->[イベントログ]を選択するか、ツールバーの[イベントログ]ボタンをクリックすると、[イベントログ]画面が表示されます。
- [保存]をクリックすると、イベントログのデータをファイルとして保存できます。
- [削除]をクリックすると、イベントログのデータを消去できます。
- [印刷]をクリックすると、印刷されます。
- [ログオプション]をクリックすると、環境設定の[ログオプション]画面に移ります。

4. 1. 2. 2 データログ

データログでは、時間・入力電圧・出力電圧・接続容量・入力周波数・無停電電源装置内部温度などのさまざまなデータを記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]に取り込むことができます。

[データログ]画面

The screenshot shows the DataTime web interface in Internet Explorer. The page title is "DataTime - Internet Explorer". The OMRON logo is visible at the top left. The main content area is titled "日時" (Date/Time) and includes a date selection section with a radio button for "日時" and a dropdown for "1週". Below this, there are date pickers for "From" (2020年 12月 19日) and "To" (2020年 12月 26日), along with a "設定" (Settings) button.

Below the date selection is a summary table with the following data:

項目	入力電圧 (V)	出力電圧 (V)	入力周波数 (Hz)	出力周波数 (Hz)	負荷容量 (%)	内部温度 (℃)	バックアップ時間 (Min)	バッテリー電圧 (V)	バッテリー容量 (%)
最大値	103.8	103.6	50.0	50.0	0	25.0	4153	54.7	100
最小値	102.8	102.7	49.9	49.9	0	24.9	4153	54.6	100
平均値	103.2	103.2	50.0	50.0	0	24.9	4153	54.7	100

Below the summary table is a detailed log table with the following data:

日時	入力電圧 (V)	出力電圧 (V)	入力周波数 (Hz)	出力周波数 (Hz)	負荷容量 (%)	内部温度 (℃)	バックアップ時間 (Min)	バッテリー電圧 (V)	バッテリー容量 (%)
2020-12-26 16:27:47	102.9	102.8	49.9	49.9	0	24.9	4153	54.7	100
2020-12-26 16:26:47	102.8	102.7	50.0	50.0	0	24.9	4153	54.6	100
2020-12-26 16:25:47	103.2	102.7	49.9	49.9	0	24.9	4153	54.7	100
2020-12-26 16:24:47	103.3	103.2	49.9	49.9	0	25.0	4153	54.7	100
2020-12-26 16:23:47	103.3	103.3	50.0	50.0	0	25.0	4153	54.6	100

At the bottom of the interface, there are several buttons: "保存" (Save), "削除" (Delete), "印刷" (Print), "ログオプション" (Log Options), and "設定" (Settings).

データログで記録できる情報と各情報の意味は、次のとおりです。

項目	意味
入力電圧	電源コンセント(商用電源)の電圧レベルです。
出力電圧	無停電電源装置からの出力されている電圧レベルです。
入力周波数	電源コンセント(商用電源)の周波数レベルです。
出力周波数	UPS からの出力周波数レベルです。
負荷容量	無停電電源装置に接続されている機器の容量です。
内部温度	無停電電源装置内部の温度です。
バックアップ時間	推定バックアップ時間を表示します。
バッテリー電圧	バッテリーの充電電圧レベルです。
バッテリー容量	バッテリーの充電レベルです。

- [ログ]->[データログ]を選択するか、ツールバーの[データログ]ボタンをクリックすると、[データログ]画面が表示されます。
- [保存]をクリックすると、データログのデータをファイルとして保存できます。
- [削除]をクリックすると、データログのデータを削除できます。
- [印刷]をクリックすると、印刷されます。
- [ログオプション]をクリックすると、環境設定の[ログオプション]画面に移ります。

4. 1. 2. 3 CO2 ログ

CO2 ログでは、あらかじめ設定しておいた係数を元に、UPS を使用する事で発生した CO2 量を記録することができます。

記録したデータは、[Microsoft Excel]に取り込むことができます

[CO2 ログ]画面

CO2ログで設定、記録できる情報と各情報の意味は、次のとおりです。

項目	意味
CO2 排出量	CO2 排出量の計算式です。係数を入力して[設定]ボタンをクリックすることで係数を変更できます。
日時	ログに表示する期間を設定します。「日時」ラジオボタンにチェックをすると、右のプルダウンメニューから1日、1週間、1ヶ月と設定できます。「From」ラジオボタンにチェックすると、期間を具体的に指定することができます。設定が完了したら[設定]ボタンを押してください。

開始時間	ログの開始期間です。
終了時刻	最新ログの取得時刻です。
総 CO2 排出量	UPS の使用開始から現在までの CO2 排出量です。
一定期間の CO2 排出量	一定期間の CO2 排出量です。
日時	そのログの取得時刻です。
UPS 電源	そのログ時点での UPS の電気使用量です。
CO2 排出量	そのログ時点での UPS の CO2 排出量です。
排出係数	そのログ時点での計算式における排出係数です。

(参考:「記録したデータを Excel で読込んだ画面」)

	A	B	C	D	E
1	日時	電気使用量 (kWh)	CO2 排出量 (tCO2)	排出係数 (tCO2/kWh)	
2	2020/12/26 17:21	0	0	0.1	
3					
4					
5					

4. 1. 2. 4 終了アプリケーション

Windows 版の PowerAct Pro は、システムを自動シャットダウンする前に、開いているファイルを自動的に保存してから、アプリケーションを終了します。終了したアプリケーションと保存したファイルに関する情報を表示します。

[終了アプリケーション情報]画面



[ログ]->[終了アプリケーション情報]を選択するか、ツールバー上の[終了アプリケーション情報]ボタンをクリックすると、[終了アプリケーション情報]画面が表示されます。

4. 1. 3 UPS 設定

4. 1. 3. 1 ブザー

バックアップ運転中に UPS のブザーをならすかならさないか設定できます。
バックアップ中にブザーをならしたくない場合は、「ならさない」にしてください。
バックアップ中にブザーをならしたい場合は、「ならす」にしてください。

[設定方法]

PowerAct Pro モニタを起動します。

メニューから[UPS 設定]→[ブザー]を選択し、ブザーを「ならす」または「ならさない」を選択してください。

注意事項

UPS の機種によっては、本体背面の「設定」スイッチでブザーの設定を行ってください。

4. 1. 3. 2 バッテリ自動テスト

自動的にバッテリーの劣化状態を診断するかしないかを選択できます。
「する」を選択すると、無停電電源装置は、4 週間間隔で自動的にバッテリー診断を行います。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[UPS 設定]→[バッテリー自動テスト]を選択し、バッテリー自動テストを「する」または「しない」を選択してください。

注意事項

バッテリー自動テスト結果が「異常あり」になった場合、UPS に内部回路故障、接続容量オーバー、出力ショート(短絡)、内部温度異常、バッテリー電圧が低い、バッテリーが劣化しているなどの可能性があります。

バッテリー自動テスト実行中は、接続負荷が変動しないように注意してください。ご使用される UPS によっては、正しくテストを実行できない場合があります。

[バッテリー劣化の場合の処理]

バッテリーが劣化している場合は、必ずバッテリー交換を行ってください。

「バッテリー劣化」のまま使用すると、入力電源異常が UPS に発生しても正常にバックアップ運転を行うことができません。

[UPS が異常の場合の処理]

UPS が異常の場合は、UPS およびシステムを停止ください。

4. 1. 3. 3 出力電圧／入力感度

UPS の出力電圧を 100V にするか 115V にするか選択できます。

電源仕様が AC115V の機器を UPS に接続する場合には、出力電圧を AC115V に切替えてご使用ください。

なお、AC115V に切替えている場合、商用運転中及びバックアップ運転中とも AC115V 出力になります。

また、UPS が停電を検出する電圧の感度を設定することができます。詳細は、次の表をご確認ください。

[設定方法]

PowerAct Pro モニタを起動します。

メニューから [UPS 設定] → [出力電圧/入力感度] を選択し、設定した出力電圧と入力感度を選択してください。

各設定項目の内容については、[出力電圧/入力感度 設定項目および説明] の表をご確認ください。

設定項目	説明
100V／高感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、高感度です。
100V／標準感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
100V／低感度	出力電圧は AC100V です。停電検出電圧感度は、標準感度より、低い値の設定です。 頻繁にバックアップ運転に入る時に、選択してください。
110V／標準感度	出力電圧は AC110V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
115V／標準感度	出力電圧は AC115V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
115V／低感度	出力電圧は AC115V です。停電検出電圧感度は、標準感度より、低い値の設定です。 頻繁にバックアップ運転に入る時に、選択してください。
120V／標準感度	出力電圧は AC120V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
200V／標準感度	出力電圧は AC200V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
220V／標準感度	出力電圧は AC220V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
230V／標準感度	出力電圧は AC230V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。
240V／標準感度	出力電圧は AC240V です。停電検出電圧感度は、標準感度です。

【注意】

UPS の機種によっては本機能を使用できません。

4. 1. 3. 4 バッテリー交換時の設定

バッテリー使用開始日(交換日)を設定することにより、定期メンテナンス(バッテリー交換)を実施する時期を前もって予定することができます。

[設定方法]

- ① メニューから[UPS 設定]→[前回のバッテリー使用開始日(交換日)]を選択し、[バッテリー使用開始日(交換日)]画面で、[日付]ボタンをクリックします。

Battery Change - Internet Explorer

OMRON

UPS使用開始日 : 2020 - 12 - 26

バッテリー交換日 : 2020 - 12 - 26

前回のバッテリー交換日 : 2020-12-26

次回のバッテリー交換 (予定日) : 2021 - 12 - 26

[注意]
2000年1月1日以前の日付を設定することはできません。
設定する日付を再入力してください。

設定 キャンセル

- ② 表示されるカレンダーで日付をクリックし、[設定]ボタンをクリックします。

- ③ [設定]ボタンをクリックして交換日を設定します。[キャンセル]をクリックすると、指定した日付が設定されません。

4. 1. 4 手動操作

4. 1. 4. 1 即時シャットダウン

即時シャットダウンを実行すると、OS の自動シャットダウンがすぐに開始されます。ただし、OS の自動シャットダウンの遅延時間を設定することもできます。OS の自動シャットダウン完了後、UPS を自動停止します。

UPS 再起動したい場合は、UPS の「電源」スイッチを入れてください。

4. 1. 4. 2 ブザーテスト

ブザーテストを実行するとUPS のブザーが1秒間なります

4. 1. 4. 3 自己診断テスト

無停電電源装置装置(UPS)の各機能が正常に動作しているかどうかを診断する機能です。自己診断テストは、スケジュール運転で設定し、自動的に行う方法と、手動で行う方法があります。UPS の自己診断は、定期的にスケジュール運転で実施されることをお勧めします。

[設定方法]

[手動で自己診断を実施する場合]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[手動操作]→[自己診断テスト]を選択し、診断を実行します。

[スケジュール運転で自己診断テストを実施する場合]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
メニューから[システム]→[スケジュール]を選択し、[スケジュール運転]画面を起動してください。
- ② [スケジュール運転]画面の[スケジュール追加]ボタンをクリックします。
- ③ [スケジュール運転 追加／修正]画面が表示されます。
- ④ スケジュール運転項目から、[自己診断実施日]と実施する日(指定日／毎週／毎月)を選択します。
- ⑤ 自己診断実施日と実施時間を指定します。
- ⑥ [設定]ボタンをクリックします。
- ⑦ [スケジュール運転]画面に戻りますので、設定したスケジュール運転内容を確認のうえ必ず[設定]ボタンをクリックしてください。
[設定]ボタンをクリックせずに、[スケジュール運転]画面を終了すると、設定したスケジュール運転は、登録されません。

【注意】

自己診断結果が「異常あり」になった場合、UPS に内部回路故障、接続容量オーバー、出力シヨート(短絡)、内部温度異常、バッテリー電圧が低い、バッテリーが劣化しているなどの可能性があります。

[バッテリー劣化の場合の処理]

バッテリーが劣化している場合は、必ずバッテリー交換を行ってください。

「バッテリー劣化」のまま使用すると、入力電源異常が UPS に発生しても正常にバックアップ運転を行うことができません。

[UPS が異常の場合の処理]

UPS が異常の場合は、UPS およびシステムを停止ください。

4. 1. 4. 4 バックアップ時間テスト

推定バックアップ時間を補正するためのテストです。本テストを実施する場合は、実負荷を接続した状態でテストしてください。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[手動操作]→[バックアップ時間テスト]を選択し、バックアップ時間テストの「実行」を選択してください。
なお、「バックアップ時間テスト」をキャンセルする場合は、「キャンセル」(Stop)を選択してください

【注意】

UPS の機種によっては本機能を使用できません。

4. 1. 4. 5 出力コンセント B / 出力コンセント C

制御機能付きの出力コンセント B または C の出力を開始 / 停止できます。

[設定方法]

- ① PowerAct Pro モニタを起動します。
- ② メニューから[手動操作]→[出力コンセント B(制御あり)](または[出力コンセント C(制御あり)])を選択し、「出力開始」または「出力停止」を選択してください。

4. 1. 4. 6 コマンド送信

メンテナンスなどの場合に使用します。通常は使用しないでください。

4. 1. 5 ヘルプ

4. 1. 5. 1 オンラインヘルプ

オンラインヘルプでは PowerAct Pro の各機能や設定方法などのさまざまな情報を記載しています。

本ソフトウェアをご使用になる前に、必ずオンラインヘルプを起動して各機能の説明や設定内容などをご確認ください。

4. 1. 5. 2 バージョン情報

バージョン情報には、本ソフトウェアのバージョン情報や著作権情報などが記載されています。

4. 1. 5. 3 システム情報

システム 情報には、マスターエージェントをインストールしたコンピュータや、接続している UPS の情報などが記載されています。

4. 1. 5. 4 管理者情報

管理者情報には、システム管理者の連絡先などの情報を登録することができます。

4. 1. 5. 5 製品ページ

インターネットに接続可能なネットワークで選択すると、オムロンのホームページを表示できます。

4. 1. 5. 6 ユーザ登録ページ

インターネットに接続可能なネットワークで選択すると、Power Act Pro のユーザ登録ページを表示できます。

4.2 モニタのツールバー

ツールバーには、アイコンボタンが表示されています。

これらのアイコンボタンをクリックすると各機能を起動することができます。

各機能の詳細については、「4. PowerAct Pro モニタ」をご確認ください。

アイコンボタン	説明
 環境設定	[環境設定]を表示します。
 スケジュール	[スケジュール]を表示します。
 イベント情報	[イベント情報]を表示します。
 イベントログ	[イベントログ]を表示します。
 データログ	[データログ]を表示します。
 終了アプリケーション情報	[終了アプリケーション情報]を表示します。
 Net Search	[エージェント自動検索]画面を表示します。[エージェント自動検索]画面が、すでに表示されている場合は、その内容を更新します。
 ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。

4. 3 イベント情報

4. 3. 1 イベント情報の内容

ログ表示やメールで通知される主なイベントは次のとおりです。対処が必要なイベントについては、対処方法が記載されています。

- 重大／警告イベント

自動シャットダウンの開始やシステムの異常など、何らかの対処が必要であることを通知するイベントです。

マーク	イベント情報	内容
✖	バッテリーロー	UPS のバッテリー電圧が低下してバッテリーローレベルになっています。このままでは電源の供給ができなくなるので自動シャットダウンを開始します。
✖	シャットダウン開始 (入力電源異常)	入力電源に異常が発生したので、自動シャットダウンを開始します。
✖	スケジュールシャットダウン 開始(指定日)	スケジュール運転(指定日)の設定日になったので自動シャットダウンを開始します。
✖	スケジュールシャットダウン 開始(毎月)	スケジュール運転(毎月)の設定日になったので自動シャットダウンを開始します。
✖	スケジュールシャットダウン 開始(毎週)	スケジュール運転(毎週)の設定日になったので自動シャットダウンを開始します。
✖	即時シャットダウン 開始	[手動操作]メニューの[即時シャットダウン]が選択されたので、自動シャットダウンを開始します。
✖	外部コマンド実行を開始 します	自動シャットダウン時に実行するよう設定された外部コマンドを実行します。
✖	アプリケーション終了を 開始します	実行されているアプリケーションの終了動作を開始します。
✖	OS シャットダウンを開始 します	OS の自動シャットダウンを開始します。
✖	ハードウェア異常	ハードウェアの異常が発生しています。
✖	自己診断結果:異常あり (ハードウェア異常)	UPS と接続機器を停止してください。
✖	バッテリー自動テスト結果: 異常あり (ハードウェア異常)	次に、接続されているすべての機器をUPS からはずし、UPS の「運転」スイッチを押して、運転を開始してください。
✖	出力電圧異常	ハードウェアの異常が再度発生した場合は、内部回路の故障の可能性があります。
✖	DC バス電圧異常	
✖	オーバーロード異常	

	出力短絡異常	
	バッテリー過充電異常	
	バッテリー充電不足異常	
	温度異常	
	ファン異常	
	トランス異常	
	バッテリー劣化	バッテリーが劣化しました。 バッテリーを交換してください。 バッテリー交換を行わないと正常なバックアップ動作を行うことができません。
	自己診断結果:異常あり (バッテリー劣化)	
	バッテリー自動テスト結果: 異常あり (バッテリー劣化)	
	入力電源異常	入力電源に異常が発生しました。 バックアップ運転を開始します。
	スケジュールシャットダウン 開始警告(指定日)	スケジュール設定による自動シャットダウン開始(指定日、毎月、毎週)時間になりました。 自動シャットダウンを開始する前に、開始警告を通知します。
	スケジュールシャットダウン 開始警告(毎月)	
	スケジュールシャットダウン 開始警告(毎週)	
	シャットダウン一時停止	待機時間中に自動シャットダウンの一時停止操作が行われたので、自動シャットダウンを一時停止します。
	接続容量オーバー	接続機器が多すぎてUPSの定格出力容量を超えています。このままでは、入力電源異常時にバックアップ動作を行うことができません。 UPSの異常表示が消えるまで、接続機器を減らしてください。
	出力電圧調整	入力電圧が高すぎるか、低すぎるため、出力電圧を調整しました
	バッテリー未接続	バッテリーが正しく接続されていません。バッテリーのコネクタを確認してください。
	バイパス運転中	バイパス運転を開始します。
	通信エラー	UPSと通信できません

- 情報イベント

運転の再開や診断テストの正常終了、各種設定値の変更など、PowerAct Pro の動作状態を確認するための通知イベントです。

マーク	イベント情報	内容
	入力電源回復	商用運転を開始します。
	通信確立	UPS と通信を開始しました。
	エージェント起動	エージェントを起動します。
	エージェント停止	エージェントを停止します。
	自己診断結果:異常なし	テストの結果に異常がなく、正常に動作しています。
	バッテリー自動テスト結果: 異常なし	
	「UPS 出力コンセント選択」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「待機時間」を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「シャットダウン開始遅延」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「シャットダウンに必要な時間」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「コンセント出力停止までの 時間」を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「UPS 起動時の出力コンセント 遅延時間」を変更しました	[UPS 起動/再起動]画面で設定が変更されました。
	「Windows 終了モード」 を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更されました。
	「UPS の自動再起動」 を変更しました	[UPS 起動/再起動]画面で設定が変更されました。
	「初回警告」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「警告間隔」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転開始警告」 を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「イベントログ最大保存数」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「データログ最大保存数」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「記録間隔(商用運転中)」 を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。

	「記録間隔(バックアップ 運転中)」を変更しました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「通信ポート」を追加しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「通信ポート」を削除しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「ネットワークポートアドレス」 に関する設定を変更しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「SMTP メール」を変更しました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を追加しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を変更しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(指定日)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎月)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「スケジュール運転(毎週)」 を削除しました	[スケジュール運転]画面で設定が変更されました。
	「外部コマンド実行時間」 を変更しました	[自動シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更され ました。
	「外部コマンド」 を追加しました	[自動シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更され ました。
	「外部コマンド」 を削除しました	[自動シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更され ました。
	「ユーザへの通知」 を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「バッテリー使用開始日(交換日)」 を更新しました	[バッテリー使用開始日(交換日)]画面で設定が変更され ました。
	「シャットダウンパラメータ」 をデフォルト値にしました	[自動シャットダウンパラメータ]画面で設定が変更され ました。

	「UPS 起動／再起動」をデフォルト値にしました	[UPS 起動／再起動]画面で設定が変更されました。
	「ログ」をデフォルト値にしました	[ログオプション]画面で設定が変更されました。
	「通信設定」をデフォルト値にしました	[通信設定]画面で設定が変更されました。
	「イベント情報」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「通知先」を変更しました	[イベント情報]画面で設定が変更されました。
	「ブザーテスト」を実行しました	[手動操作]メニューの[ブザーテスト]が実行されました。
	「自己診断テスト」を実行しました	[手動操作]メニューの[自己診断テスト]が実行されました。
	「ブザー」設定を変更しました	[UPS 設定]メニューの[ブザー]の設定が変更されました。
	「バッテリー自動テスト」設定を変更しました	[UPS 設定]メニューの[バッテリー自動テスト]の設定が変更されました。
	「バックアップ時間テスト」を開始しました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]が選択され、テストが開始されました。
	「バックアップ時間テスト」を終了しました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]で開始されたテストが終了しました。
	「バックアップ時間テスト」をキャンセルしました	[手動操作]メニューの[バックアップ時間テスト]で開始されたテストが中断されました。
	「出力コンセント B(制御あり)」の出力を開始しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント B(制御あり)]によって出力コンセント B の出力が開始されました。
	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を停止しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント B(制御あり)]によって出力コンセント B の出力が停止されました。
	「出力コンセント C(制御あり)」の出力を開始しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント C(制御あり)]によって出力コンセント C の出力が開始されました。
	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を停止しました	[手動操作]メニューの[出力コンセント C(制御あり)]によって出力コンセント C の出力が停止されました。
	「出力電圧／入力感度」を変更しました	[UPS 設定]メニューの[出力電圧／入力感度]の設定が変更されました。
	「バッテリーユニット」を増設しました	バッテリーユニットが増設可能な UPS(BN150XR など)でバッテリーユニットが増設されました。
	自動シャットダウンを再開します	エージェントのメニューで中断された自動シャットダウン動作が再開されました。
	「UPS 自動停止」を変更しました	[シャットダウンパラメータ]画面の設定が変更されました。

	「ページ更新設定」 を変更しました	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	「冗長電源設定」 を変更しました	[自動シャットダウンパラメータ]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 機能」を有効に しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 機能」を無効に しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 設定」を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Priority 設定」を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「Syslog 言語設定」 を変更しました	[Syslog 設定]画面の設定が変更されました。
	「送信設定」を変更しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「送信タイミング」 を変更しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を追加しました	[Wake On LAN]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を修正しました	[スレーブエージェント登録]画面の設定が変更されました。
	「Wake On LAN 送信先」 を削除しました	[スレーブエージェント登録]画面の設定が変更されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント A を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント A の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント B を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント B の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント C を 出力停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント C の出力が停止されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント A を 出力停止/出力開始します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント A の出力を停止後、再度開始されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント B を 出力停止/出力開始します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント B の出力を停止後、再度開始されました。
	Ping 監視判断基準が不合格の ため、出力コンセント C を	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので出力コンセント C の出力を停止後、再度開始されまし

	出力停止/出力開始します。	た。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント A の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント A の出力の監視が再開されました。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント B の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント B の出力の監視が再開されました。
	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント C の監視を再開します。	[Ping 監視]の実行の結果が「合格」でしたので出力コンセント C の出力の監視が再開されました。
	出力コンセント A に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント A に設定されている機器からの応答がありません。
	出力コンセント B に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント B に設定されている機器からの応答がありません。
	出力コンセント C に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。	[Ping 監視]の実行の結果出力コンセント C に設定されている機器からの応答がありません。
	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を停止します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので UPS を停止しました。
	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を再起動します。	[Ping 監視]の実行の結果が「不合格」でしたので UPS を停止/再起動しました。
	リモートコンピュータは Ping 監視のスクリプトで自動シャットダウンしました。	[Ping 監視]の実行の結果リモートコンピュータのスクリプト自動シャットダウンを実行しました。
	SNMP サービス開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP サービス停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 開始しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 停止しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 アクセス権限追加しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 アクセス権限削除しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 アクセス権限変更	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。

	しました。	
	SNMP V3 アクセス権限追加 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 アクセス権限削除 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 アクセス権限変更 しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 追加しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 削除しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V1 TRAP 変更しました。	[SNMP V1 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 追加しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 削除しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	SNMP V3 TRAP 変更しました。	[SNMP V3 設定]画面の設定が変更されました。
	スクリプトシャットダウン追加 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	スクリプトシャットダウン削除 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	スクリプトシャットダウン変更 しました。	[スクリプトシャットダウン]画面の設定が変更されま した。
	[ログオフ時間] を変更しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	最大バックアップ時間 を変更しました。	[その他のデバイス]画面の設定が変更されました。
	UPS 起動遅延時間 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	UPS コールドスタート設定 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	出力遅延コマンド送信 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	UPS 再起動条件 を変更しました。	[UPS 再起動設定]画面の設定が変更されました。
	通知遅延時間設定 を変更しました。	[イベントログオプション]画面の設定が変更されまし た。
	POP Before SMTP を変更しました。	[Mail 設定]画面の設定が変更されました。
	管理者設定を変更しました。	[管理者情報]画面の設定が変更されました。

	スクリプトシャットダウンを開始しました。	スクリプトシャットダウンが実行されました。
	VMware 終了処理を開始しました。	VMware の終了処理が実行されました。
	ブロードキャストを変更しました。	[通信設定]画面の設定が変更されました。
	Ping 設定を変更しました。	[Ping 監視設定]画面の設定が変更されました。

4. 3. 2 イベント情報による外部コマンドの実行

イベント情報とコマンドの関係付けをあらかじめ行っておくことで、イベント発生時に、そのイベントに関係付けされたコマンドを自動実行する機能です。

[設定方法]

- ① メモ帳などのテキストエディタを起動します。
- ② 以下のフォーマットに従って、イベントと実行するコマンドの関係を記述します。
 イベントコード = コマンド名
 イベントコード: PowerAct Pro のイベントコードを 16 進数で記述します。
 (イベントコードは「イベントコード一覧」を参照してください)
 コマンド名 : 実行するコマンドをフルパスで記述します。
 (Windows のコマンド以外のユーザが独自に作成した exe ファイルでもかまいません)
 例: 0x409 = C:¥OMRON¥test.exe
 0x409(通信エラー)のイベント発生時に、C:¥OMRON フォルダにある test.exe を実行。
 「イベントコード = コマンド名」を 1 行として、計 10 行まで記述できます。
 (=最大 10 個のルールが設定できます)
- ③ 作成したファイルを、PowerAct Pro のインストールフォルダ
 (デフォルトでは「C:¥Program Files¥PowerAct Pro(Master Agent)」)に、
 「ExternalSetting.ini」というファイル名で保存します。
- ④ PowerAct Pro のエージェントを再起動します。
 タスクトレイのアイコンのメニューで「エージェント停止」を実行し、次に「エージェント起動」を実行することで再起動できます。
 もしくは、PowerAct Pro をインストールしている PC を再起動してください。
 これで、本機能が有効になります。

[イベントコード一覧]

以下に示すイベントを設定できます。

「重大」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x800	バッテリーロー
0x801	シャットダウン開始(入力電源異常)
0x802	スケジュールシャットダウン開始(指定日)
0x803	スケジュールシャットダウン開始(毎月)
0x804	スケジュールシャットダウン開始(毎週)
0x805	即時シャットダウン開始
0x806	外部コマンド実行を開始します
0x807	アプリケーション終了を開始します
0x808	OS シャットダウンを開始します
0x809	ハードウェア異常
0x80A	出力電圧異常
0x80B	DC バス電圧異常
0x80C	オーバーロード異常
0x80D	出力短絡異常
0x80E	バッテリー過充電異常
0x80F	バッテリー充電不足異常
0x810	温度異常
0x811	ファン異常
0x812	トランス異常
0x813	バッテリー劣化
0x814	自己診断結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x815	自己診断結果:異常あり(ハードウェア異常)
0x816	バッテリー自動テスト結果:異常あり(バッテリー劣化)
0x817	バッテリー自動テスト結果:異常あり(ハードウェア異常)
「警告」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x400	入力電源異常
0x401	スケジュールシャットダウン開始警告(指定日)
0x402	スケジュールシャットダウン開始警告(毎月)
0x403	スケジュールシャットダウン開始警告(毎週)
0x404	シャットダウン一時停止
0x405	接続容量オーバー
0x406	出力電圧調整
0x407	バッテリー未接続

0x408	バイパス運転中
0x409	通信エラー
「情報」カテゴリ	
イベントコード	内容
0x000	入力電源回復
0x001	通信確立
0x002	エージェント起動
0x003	エージェント停止
0x004	自己診断結果:異常なし
0x005	バッテリー自動テスト結果:異常なし
0x006	「UPS 出力コンセント選択」を変更しました
0x007	「待機時間」を変更しました
0x008	「シャットダウン開始遅延」を変更しました
0x009	「シャットダウンに必要な時間」を変更しました
0x00A	「コンセント出力停止までの時間」を変更しました
0x00B	「UPS 起動時の出力コンセント遅延時間」を変更しました
0x00C	「OS の終了モード」を変更しました
0x00D	「UPS の自動再起動」を変更しました
0x00E	「初回警告」を変更しました
0x00F	「警告間隔」を変更しました
0x010	「スケジュール運転開始警告」を変更しました
0x011	「最大イベントログ記録時間」を変更しました
0x012	「最大データログ記録時間」を変更しました
0x013	「記録間隔(商用運転中)」を変更しました
0x014	「記録間隔(バックアップ運転中)」を変更しました
0x015	「通信ポート」を追加しました
0x016	「通信ポート」を削除しました
0x017	「ネットワークポートアドレス」に関する設定を変更しました
0x018	「SMTPメール」を変更しました
0x019	「スケジュール運転(指定日)」を追加しました
0x01A	「スケジュール運転(毎月)」を追加しました
0x01B	「スケジュール運転(毎週)」を追加しました
0x01C	「スケジュール運転(指定日)」を変更しました
0x01D	「スケジュール運転(毎月)」を変更しました
0x01E	「スケジュール運転(毎週)」を変更しました
0x01F	「スケジュール運転(指定日)」を削除しました
0x020	「スケジュール運転(毎月)」を削除しました
0x021	「スケジュール運転(毎週)」を削除しました

0x022	「外部コマンド実行時間」を変更しました
0x023	「外部コマンド」を追加しました
0x024	「外部コマンド」を削除しました
0x025	「ユーザへの通知」を変更しました
0x026	「バッテリー使用開始日(交換日)」を更新しました
0x027	「シャットダウンパラメータ」をデフォルト値にしました
0x028	「UPS 起動/再起動」をデフォルト値にしました
0x029	「ログ」をデフォルト値にしました
0x02A	「通信設定」をデフォルト値にしました
0x02B	「イベント情報」を変更しました
0x02C	「通知先」を変更しました
0x02E	「ブザーテスト」を実行しました
0x02F	「自己診断テスト」を実行しました
0x030	「ブザー」設定を変更しました
0x031	「バッテリー自動テスト」設定を変更しました
0x032	「バックアップ時間テスト」を開始しました
0x033	「バックアップ時間テスト」を終了しました
0x034	「バックアップ時間テスト」をキャンセルしました
0x035	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を開始しました
0x036	[出力コンセント B(制御あり)]の出力を停止しました
0x037	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を開始しました
0x038	[出力コンセント C(制御あり)]の出力を停止しました
0x039	「出力電圧/入力感度」を変更しました
0x03A	「バッテリーユニット」を増設しました
0x03B	シャットダウンを再開します
0x065	「UPS 自動停止」を変更しました
0x066	「ページ更新設定」を変更しました
0x067	「冗長電源設定」を変更しました
0x068	「Syslog 機能」を有効にしました
0x069	「Syslog 機能」を無効にしました
0x06A	「Syslog 設定」を変更しました
0x06B	「Priority 設定」を変更しました
0x06C	「Syslog 言語設定」を変更しました
0x06D	「送信設定」を変更しました
0x06E	「送信タイミング」を変更しました
0x06F	「Wake On LAN 送信先」を追加しました
0x070	「Wake On LAN 送信先」を修正しました
0x071	「Wake On LAN 送信先」を削除しました

0x072	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止します。
0x073	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止します。
0x074	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止します。
0x075	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント A を出力停止／出力開始します。
0x076	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント B を出力停止／出力開始します。
0x077	Ping 監視判断基準が不合格のため、出力コンセント C を出力停止／出力開始します。
0x078	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント A の監視を再開します。
0x079	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント B の監視を再開します。
0x07A	Ping 監視判断基準が合格のため、出力コンセント C の監視を再開します。
0x07B	出力コンセント A に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07C	出力コンセント B に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07D	出力コンセント C に接続されているいくつかの装置から Ping 応答がありません。
0x07E	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を停止します。
0x07F	Ping 監視判断基準が不合格のため、UPS を再起動します。
0x080	リモートコンピュータは Ping 監視のスクリプトで自動シャットダウンしました。
0x081	SNMP サービス開始しました。
0x082	SNMP サービス停止しました。
0x083	SNMP V1 開始しました。
0x084	SNMP V1 停止しました。
0x085	SNMP V3 開始しました。
0x086	SNMP V3 停止しました。
0x087	SNMP V1 アクセス権限追加しました。
0x088	SNMP V1 アクセス権限削除しました。
0x089	SNMP V1 アクセス権限変更しました。
0x08A	SNMP V3 アクセス権限追加しました。

0x8B	SNMP V3 アクセス権限削除しました。
0x8C	SNMP V3 アクセス権限変更しました。
0x8D	SNMP V1 TRAP 追加しました。
0x8E	SNMP V1 TRAP 削除しました。
0x8F	SNMP V1 TRAP 変更しました。
0x90	SNMP V3 TRAP 追加しました。
0x91	SNMP V3 TRAP 削除しました。
0x92	SNMP V3 TRAP 変更しました。
0x93	スクリプトシャットダウン追加しました。
0x94	スクリプトシャットダウン削除しました。
0x95	スクリプトシャットダウン変更しました。
0x96	[ログオフ時間]を変更しました。
0x97	最大バックアップ時間を変更しました。
0x98	UPS 起動遅延時間を変更しました。
0x99	UPS コールドスタート設定を変更しました。
0x9A	出力遅延コマンド送信を変更しました。
0x9B	UPS 再起動条件を変更しました。
0x9C	通知遅延時間設定を変更しました。
0x9D	Pop Before SMTP を変更しました。
0x9E	管理者設定を変更しました。
0x9F	スクリプトシャットダウンを開始しました。
0xA0	VMware 終了処理を開始しました。
0xA1	ブロードキャストを変更しました。
0xA2	Ping 設定を変更しました。

本取扱説明書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されております。
本取扱説明書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社